

令和四年（二〇三二）三月二十五日発行
『大倉山論集』第六十八輯抜刷
（公益財団法人 大倉精神文化研究所）

翻刻 研究所沿革史資料「精神運動書翰」（大倉先生教育事業
の記録）

公益財団法人大倉精神文化研究所

翻刻 研究所沿革史資料「精神運動書翰」 （大倉先生教育事業 の記録）

公益財団法人大倉精神文化研究所

目次

解題
凡例
翻刻
年表
索引

【解題】

（翻刻の目的、研究上の意義）

公益財団法人大倉精神文化研究所は、令和四年四月九日に創立九〇周年を迎える。

創立者・大倉邦彦は研究所を設立するにあたって、人間には「宗教的信念に基く人生観の確立」と「健全なる国家観の確立」が必要であるが、「この重大なる使命を担ふ可き宗教界・教育界の状態」は憂うべきものであり、研究所を通じて「真に国民を指導し、日本文化の精髓を發揚し、進んで世界の文化に貢献し得べき力ある宗教家・教育家・思想家・実行家の輩出」を目指すと言^①した。そのため「全生涯を挙げてこの事業に捧ぐるのみならず、斃れて尚ほ止まぬ決心を有する」と決意しながらも、「勿論此大理想は不肖一代に果し得ざる」として、自身が没した後も研究所が永続的な活動を出来る様に、昭和十一年（一九三六）に文部省（現在は文部科学省）所管の財団法人とした。その後法律の改正に伴い、平成二十四年（二〇一二）に公益財団法人となり現在に至っている。

法人として組織を維持し、更なる発展を目指すためには、その時々的情勢に沿った活動や発信が不可欠ではあるが、一方で、創立者の大倉邦彦が掲げた理念に立脚しなければ、当財団及び研究所としての存立意義は失われてしまう。そのため、研究所の歩みを伝える資料を保存し、その内容を理解、普及することは極めて重要な意味を持つ。

大倉精神文化研究所では、設立後の活動を伝える数多くの資料を所蔵しており、昭和七年以降については詳しく知ることができるが、実業家だった大倉邦彦が、前述のような考えに至った経緯や、精神文化活動を始めた大正期から研究所設立までの活動についてはそれを窺い知れる資料が少ない。そこで今回、邦彦の初期の教育活動や精神文化活動の実態と思想を記録した資料として「精神運動書翰」を選定し、翻刻掲載することとした。

（底本と閲覧利用）

底本は、研究所沿革史資料「4」の「精神運動書翰」全一冊である。

研究所沿革史資料は、大倉精神文化研究所附属図書館が所蔵する二十四種類の貴重コレクションの一つである。その内訳は、研究所設立が計画された頃から現在に至るまでの、大倉邦彦と研究所に関する資料群で、内容は事務文書、書籍、設計図面、写真、書簡など多岐にわたっている。いまま登録作業は継続中で、現在目録データが約十万レコードとなっている。研究所沿革史資料は原則としてすべて公開しており、附属図書館で閲覧できる。資料目録は順次OPACで外部から検索出来るように対応を進めており（令和四年三月現在で約四万八千点）、残りの資料も所内で検索していただける。

今回の底本はこの研究所沿革史資料の一つで、原本は附属図書館で閲覧が可能となっている。しかし、資料の劣化が進みつつあることから、すでに全ページのデジタル撮影も終えており、なるべく早い時期に研究所ホームページのデジタルアーカイブに公開したいと考えている。

（体裁）

黒色に近いボール紙表紙の手帳で、寸法は縦二〇・七センチ×横一六・三センチ。表紙、裏表紙にタイトルの記載は無い。背表紙には貼紙があつて、「中等教育談話会」「宗教講話会」と書かれているが、一部は摩滅している。

表裏の表紙に続き、見返しがそれぞれ一枚、本紙が百七十三枚ある。本紙には切り取られたページもあるので、本来はもう少し多かったものと思われる。各ページは両面罫紙となっており、七・五ミリ幅で二十三本の罫線が引かれている。

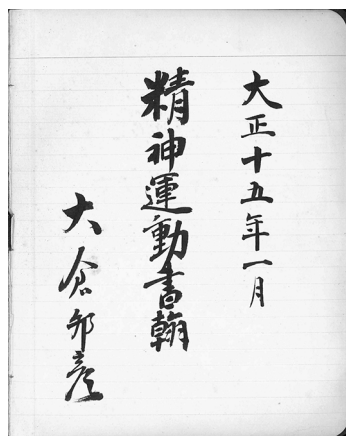


図1 「精神運動書翰」

(タイトル)

左開きの見返し裏に、「大正十五年一月 精神運動書翰 大倉邦彦」(図1)と大きく墨書されているので、これを資料名とした。大倉邦彦の自筆と思われる。

副題の「大倉先生教育事業の記録」は、資料整理の時に担当者が内容理解のために整理用封筒に付した注記である。「精神運動」とは、大倉邦彦が教育事業や精神文化事業を実践するに際して、その根底に持っていた考えである。詳しくは後述する。

(著者)

内容は、大倉邦彦の教育事業の記録であるが、筆蹟が異なるので、複数の記録者がいたものと推定される。その一人は大倉邦彦自身と思われるが、中心となって記録したのは、牟田直であろう。牟田は、大倉と同じ佐賀県神埼郡西郷村字姉川(現佐賀県神埼市神埼町姉川)の出身である。大倉が母校の西郷小学校へ講堂を寄付し、大正十四年(一九二五)十二月の落成式に出席した際に「向学心のある少年がおれば」と周囲に語り、牟田が選ばれて上京することとなった^④。以後、大倉の下で会社経営と精神文化活動を支え続けて、のちに大倉博進(大倉洋紙店の後継)の社長、会長、そして大倉精神文化研究所理事長を務めた。

なお、大倉邦彦の秘書であった原田三千夫は、他の自筆資料と比較する限り、本資料の執筆には関わっていなかったものと思われる。

(記述)

全体の記述は、三部に分かれている。

右開きは、最初に大正十四年四月の富士見幼稚園開園に合わせて印刷された「富士見幼稚園のさだめ」が貼り付けられている。そして、徳富蘇峰著『国民小訓』一冊を寄贈し普及を促す大倉邦彦の大正十四年三月付け推薦状の写から本文が始まり、昭和六年（一九三二）十二月二十日の記事まで、八十三枚に互って記述されている。これを第一部とする。記述はほぼ年代順になっているが、一部前後していたり、日付や曜日の誤りもあつたりすることから、ある程度纏めて後日に記録した部分があると思われる。

そして二枚分の余白を取った後、昭和八年（一九三三）二月から十年（一九三五）二月までの宗教講話会の日時、講師、演題、聴聞者数などが、両面二枚に記述されている。これを第二部（三五二頁より）とする。

一方、左開きは、昭和五年（一九三〇）二月二十三日の第一回中等教育談話会の簡略な内容記録と出席者名から始まり、昭和九年（一九三四）十一月十一日の『行の教育』発売状況報告等の会議まで、十四枚に互って記述されている。これを第三部（三五六頁より）とする。

なお、右開きからの記述と左開きからの記述との間には、余白が七十一枚ある。

「精神運動書翰」の本来の記録は第一部であり、第三部の中等教育談話会も第一部に略記されていたが、第三回まではまとまった活動として詳細が別記されたものである。第二部の宗教講話会も本来第一部の中に含まれて記録されていたが、第一部の記録が行われなくなった後に、継続して別記されたものと考えられる。そこで本稿では、第一部、第二部、第三部の順に翻刻を行った。この他に、挟み込まれている資料が三枚あり、該当箇所に関版を付した上で翻刻した。

置づけが変化したことがわかる。⁶⁾

また、「教育事業」の一つである学生寮は、学生の徳育を無視している近代学校教育の欠陥を補うため、人格の修養所なる寄宿舎を提供することにあつた（学生寄宿舎設立発起書⁷⁾）。

この他、郷里の小学校への講堂寄附や、富士見学びの会なども同様に人格教育や精神的修養を目的としており、すべて「精神運動」の一部であつたことが分かる。

そして、大倉が数多くの講演を行つていたこともわかる。場所も東京近辺だけではなく、故郷の佐賀県神埼市をはじめ、山形県米沢市、群馬県高崎市、千葉県市川市、長野県飯山市、静岡県沼津市、愛知県名古屋市、愛媛県宇和島市、大分県佐伯市へ足を運んでいる。また、日本貿易協会、十日会（東京市の印刷会社の会）、紙商同業組合、竹



図3 東邦電気株式会社名古屋支店における講演風景

中組などの企業や実業団体、西郷小学校、目黒実科高等女学校、府立第三商業学校、商大寄宿寮、桜楓会などの学校・教育機関以外にも、神田基督教青年館、一如会（禅研究会）、日比谷大神宮といった宗教団体・施設、ロータリークラブ、婦一協会などの諸団体等々、実に多種多様なところから招聘されていたことがわかる。当時、大倉は実業家としてだけではなく、すでに「精神運動」に取り組んでいる人物としても世に知られていたのである。

なお文中に、東邦電気株式会社名古屋支店・岐阜

支店・四日市支店で講演したことが記されているが、別資料の「新聞・雑誌記事切抜帖（一）」（沿革史資料7380）に、同社より送られてきた写真が貼りこまれている。当時の雰囲気がかかるので、参考として前頁に掲示する（図3）。

第二部 宗教講話会

宗教講話会は、大倉邦彦が提唱し、主催した会である。第一部には、昭和二年（一九二七）六月二十八日に目黒の大倉邦彦邸で、今成覚禪を講師に迎えて開催された第一回宗教講話会から記録されている。同年十一月三十日の第七回からは原田祖岳が加わり、月初めに原田、中旬に今成の法話が定番となっていく。

会場は当初各所を転々としていたが、昭和二年十一月二十九日、目黒の大倉邦彦邸の隣に講堂が完成すると、宗教講話会はここを会場として開催されるようになる。

会の目的について、『皇紀式千五百八十九年度版私の使命事業』⁸で、大倉は次のように説明している。

爽かな弁舌も、内に響く生命の鼓動がなければ、人を動かすに足りません。徒らに声を高くした所で、現代人は耳を傾けやうとはしないのであります。現代人の求めてゐるものは、空論ではなくて、力ある体験の声であります。（中略）この見地から、体験のある諸名士、殊に宗教家を、拙宅の講堂に招いて、講話会を催し、私の関係の者は申すに及ばず、汎く一般の人々の来聴を願つて居ります。

これに続けてこの年は、「時には又、若い学生を招き、それ等の人々から溢れる愛国の情熱を聴くこともあります」と書かれている。たとえば、神埼出身で、当時東京師範学校（現筑波大学）の学生であつた副島羊吉郎もその一人で、

目黒駅の近くの自宅に小さな講堂があつて、そこで昭和二年頃は月一回位名士の講演会があつたので、時々出か

けていた。日本精神に関するものが多く聴衆は大半が学生であった。⁹⁾
と回顧している。この講演会の中には、大川周明による「大学」講義もあった。¹⁰⁾

その後、今成覚禪は昭和五年（一九三〇）十一月で講師を退き、以後は原田祖岳が中心となる。昭和七年（一九三二）の『皇紀二千五百九十二年度私の使命事業』¹¹⁾では、

講堂を開いて既に四ヶ年を経過致しました。月一回、乃至二三回の催しに其都度七、八十人の来聴者がありまして何れも真面目に信仰に生きる真摯な求道者の集ひとなつて居ります。原田老師による無門関の提唱は今も尚ほ続いて居ります。

と記している。

法話の内容については、昭和四年十一月と十二月の分は『心の使』第二号に、翌五年一月から三月までは同第三号で紹介されている。¹²⁾

第二部は、この宗教講話会の昭和八年二月から同十年二月までの記録であり、宗教講話会はこれで終了したものと思われる。

第三部 中等教育談話会

中等教育談話会も、大倉邦彦が提唱し主催した会である。

中等教育談話会は、東京都下の中学校や商業学校の職員有志を集めて、当初「中等教育談話会」の名称で昭和五年二月二十二日に大倉洋紙店会議室で第一回が開催された。この時は、大倉邦彦、原田三千夫、青木常盤（日本青年協会）と、各学校から九人が集まった。その発言内容は、『心の使』第三号¹³⁾に紹介されている。会の冒頭、大倉邦彦は

次のように趣旨説明をしている。

今の社会の思想は素質が悪い、杞憂かも知れぬが、日本の永遠性を傷けはせぬかと恐れる。これが改善策は種々あるが、私の結論としては、制度様式の改善よりも、先づ、これを運用する人間を改良するにある。人間の改良はどうしても、宗教と教育とに俟たなければならぬと考へ、精神文化研究所の建設を企て、欧州に於ける精神運動を視察し、学者、宗教家の門を叩いて来た。一方私は常に教育事業に携つてゐる方と関係を持たなければならぬと思つてゐた。幸ひ、共通点をお持ちの方々に今晚のお集りを願つた訳である。

将来の教育は、大きな目的、共通の中心思想を持つた人々によつて、なされなければならぬと思ふ。この人々が会合して語り合ふ会が是非なくてはならぬ。私はその中にあつて、犬馬の勞を厭はないものである。然し、往々会となると流行的な実質のないものに墮し易い。今晚の会は打ち解けて気持ちよくお話し願ひ度い。

修身教育と国体思想の徹底普及といふ問題の下に、皆さんの御意見を述べて頂き度い。

会の名称は、本書の記述によると、昭和六年六月十七日の第十四回から「談論会」を「談話会」に改めて使用している。¹⁴『皇紀二千六百年五月増補 使命事業』¹⁵によると、「毎月一回会合して、特に中等学校に於ける行の教育、公民教育、歴史教育、教育制度等の問題を討議研究せり」と記している。関連資料として、「行の教育研究座談会要項」¹⁶や、昭和五年五月三日の第二回中等教育談話会の議事録¹⁷などが現存している。

昭和六年頃は公民教科書の編纂を目指して活動していたが、これは実現できなかったようである。しかし、「中等学校に於ける行の教育」に関しては、討議の成果を踏まえて全国二百五十の中等学校に依頼して得た七三通の回答結果を纏めて、『中等学校に於ける行の教育』（三省堂、昭和九年六月）を刊行している。¹⁸

その後、大倉精神文化研究所編として「古来我が国民鍊成の基礎たりし神儒仏三道を中心とする諸学の先哲により

て樹立せられたる行の精神を伝ふる文献を収輯¹⁹⁾して、『行の教育・資料篇』（三省堂、昭和十五年一月）を刊行している。

第三部中等教育談話会の記事は、昭和九年十一月十二日に談話会の組織改革について相談したところで終っている。『皇紀二千五百九十六年度版 使命事業²⁰⁾』で「数年前、志ある都下中等学校の先生方と共に、毎月一回中等教育談話会を開いて、四年間ほど継続しました」とあるので、昭和九年中に終了したと思われる。

（限界、他資料との関係）

前述したように、本資料「精神運動書翰」は複数の記主により日記風に記録されているが、残念なことに担当記主が参加していない行事は書かれていない。それを補完しうる資料として、大倉精神文化研究所の設立準備を始めた大正末期から続く日誌類がある。その内の最初の一冊「日誌」（大正十四〜昭和九年²¹⁾）と、附属施設富嶽荘の「日誌」（昭和五〜七年²²⁾）が、本資料とほぼ同時期の記録である。

これらを比較すると、「日誌」は昭和三年（一九二八）三月に欧州から帰朝した原田三千夫が記録を始めたものであり、それ以前の事は溯つての記述で極簡略である。しばらくの間は原田三千夫の活動記録で、内容は原田が担当していた図書の収集、研究所の建設、古文書古記録副本作製部に関することなどが中心となっている。富嶽荘の「日誌」は、富嶽荘の寮生による当番制の記録であり、たまに記主が宗教講話会等に参加したことが記録されている。

「精神運動書翰」は、昭和五年六月以降になると「日誌」と記事の重複が多くなるが、それ以前は本書にしか記載が無い記事が大半を占めており、貴重である。いずれ、この三種の資料の情報を統合して、研究所創立前からの大倉邦彦の動向などを整理したいと考えている。

なお本稿では、「精神運動書翰」の翻刻のあとに、同資料に基づく「年表」と、記述に登場する人名・各種団体の「索引」も掲載した。併せて参照されたい。

注

- (1) 「設立の趣意」(『私の使命事業(皇紀二五八九年・昭和四年度版)』研究所沿革史資料207)。設立趣意書は、掲載資料の年度によって文章が加筆修正されている。
- (2) 「設立の趣意」(『私の使命事業(皇紀二五九三年・昭和八年度)』研究所沿革史資料210)。
- (3) 翻刻三九一―二九二頁に「満堂寄献之微意」が記載されている。
- (4) 「牟田直の回顧談」(『大倉紙バルブ商事百年史』大倉紙バルブ商事株式会社、平成元年) 三三八頁。
- (5) 精神文化事業の中核をなすのが大倉精神文化研究所であり、昭和七年の研究所の開設後は「生産事業」と「大倉精神文化研究所」の二本柱になり、研究所の機能として「研究」と「実践」が位置づけられ、教育事業はこの「実践」に含まれるようになる。
- (6) 前掲注1「設立の趣意」。
- (7) この学生寄宿舎は、当初郷里の佐賀県出身者の学生支援を目的として企画されていた(学生寄宿舎設立発起書) ことも記されている。
- (8) 研究所沿革史資料207。
- (9) 副島羊吉郎『激動の二十世紀における私の人生遍路』(私家出版、平成八年) 九頁。翻刻三二〇頁の昭和三年四月二十八日条に名前が見える。

- (10) 大川周明の「大学」講義は、大倉邦彦邸の講堂で昭和五年六月十七日、十九日、二十四日、二十六日の四回に互って開催された。参加した牟田直は、その講義内容を記録しており、『大倉山論集』第五六輯（大倉精神文化研究所、平成二十二年）の林宏美「大川周明博士「大学」講義速記」にて全文翻刻を掲載している。なお「富嶽荘日誌」（研究所沿革史資料1365）の昭和五年六月二十一日分を担当した牟田直は、「今夜は一同大倉講堂に於ける大川博士の講義に出席」と記しているが、この日に大川周明の講義は開催されていないし、講義録にもこの日の記述は無いので、何らかの誤りと思われる。

- (11) 研究所沿革史資料290。

- (12) 「心の使自第一号至第三号」（研究所沿革史資料3255）。

- (13) 前掲注11「心の使自第一号至第三号」。

- (14) 「日誌」（研究所沿革史資料2995）では、昭和六年七月十八日の第十五回からになっている。同年七月十四日の公民教科書編纂下相談会での相談内容（4）に「本会名称は中等教育談話会と決定す」とあることから、六月から通称として利用している、七月に正式名称としたと思われる。

- (15) 研究所沿革史資料290。

- (16) 研究所沿革史資料3255。年欠。

- (17) 「学校課程並社会に於ける行の教育について」（研究所沿革史資料985）。

- (18) 同書には、沿革として前記第一回から昭和八年九月の第二四回までの日程と内容も抄録されている。

- (19) 前掲注14『皇紀二千六百年五月増補使命事業』。

- (20) 研究所沿革史資料214。

- (21) 研究所沿革史資料2195。

- (22) 前掲注9「富嶽荘日誌」（研究所沿革史資料13165）。

【凡例】

- 一、原本の漢字はすべて現代通用の字体に改め、かな文字・カタカナ・数字表記は原本通りとした。
- 一、明らかな誤字も原本通り翻刻した上で、正字を「」でルビとして付した。
- 一、原本の書式は記録者や時期によって不統一である。本翻刻では、記載内容を充分に考慮した上で、書式を整理統一した。
- 一、原本中の図等も可能な限り忠実に再現した。
- 一、文章の意に沿うように、適宜句読点を施した。
- 一、資料内容の理解のため、本文中に補注を「」で適宜付した。
- 一、入力校正は酒井君代、中島志郎、吉田舞衣が、解題は平井誠二、星原大輔が担当した。

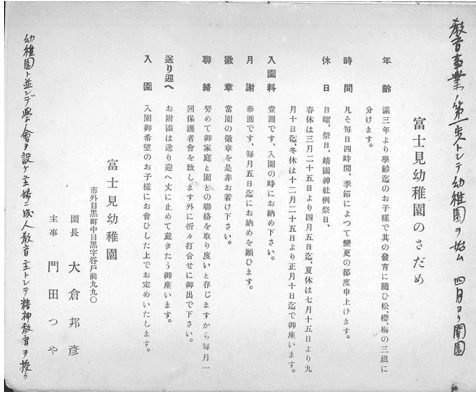
【翻刻】

【第一部】

「精神運動書翰」(大倉先生教育事業の記録)

〔大正十四年〕

〔四月／富士見幼稚園開園〕¹⁾



教育事業ノ第一歩トシテ幼稚園ヲ始ム。四月ヨリ開園。

富士見幼稚園のさだめ

年齢 満三年より学齡迄のお子様で、其の發育に随ひ松、桜、梅の

三組に分けます。

時間 凡そ毎日四時間、季節によつて変更の都度申上げます。

休日 日曜、祭日、靖国神社例祭日。

春休は三月二十五日より四月五日迄、夏休は七月十五日より九月十日迄、冬休は十二月二十五日より正月十日迄で御座い

ます。

費用です。入園の時にお納め下さい。

月謝 参円です。毎月五日迄にお納めを願ひます。

徽章

当園の徽章を是非お着け下さい。

連絡

努めて御家庭と園との連絡を取り度いと存じますから、毎月一回保護者会を致します。外に折々打合せに御出下さい。

送り迎へ

お附添は送り迎へ丈に止めて戴きたう御座います。

入園

入園御希望のお子様にお会ひした上でお定めいたします。

富士見幼稚園

市外目黒町中目黒字谷戸前九九〇

園長 大倉邦彦

主事 門田つや

〔重筆〕
幼稚園ト並ンデ学ノ会ヲ設ケ、主婦ニ成人教育主トシテ精神教育ヲ授ク

保育の方針

保育の方針

○富士見幼稚園は其名の様に氣高く

心身共に強い自然な子供を育て

○協同 我の習慣を付け

○そうして幼少の頃から

天皇陛下日本國又は國際などの觀念

を與へる様に心掛けて居ります



○富士見幼稚園は、其名の様に氣高く、心身共に強い自然な子供を育て

○協同一致の習慣を付け

○そうして幼少の頃から天皇陛下日本國又は國際などの觀念を與へる様に心掛けて居ります。

〔三月／徳富蘇峰『国民小訓』の推薦状〕

思想悪化・民心弛緩の刻下、偶々蘇峰氏の『国民小訓』^②を得て、之を江湖の有志に頒つ。

追々と凌ぎよい季節になりました。御障もなく御精励の事とよろこばしく存じます。

『国民小訓』一冊差上げますから御一読下さい。そして、御関係の学校や御知合の方へも此精神が普及いたします様御尽力下さる様祈って止まないのです。

近来吾国民思想の動揺は、心あるものの誰しも颯々憂慮する処で御座ります。総じて、世相は自己の目前の幸福だの満足ばかりに熱心で、君国は後廻しになる様で、中には忘れてしまった様な人々も御座ります。然し、それを如何にして救ひ出すか、如何にすれば我建国の精神が確保されるかにつきまして、未だ適確な帰着点を明示して民心の嚮ふべき道を訓へたるものがない様に思ひます。これは、恰も羅針盤なくして船を進めんとする様なものです。私は何時も考へさせられます。何が隆盛であらうが、地位や富が出来やうが、国と君との根幹がなくて何の価値がありません。民族の歴史なくなつて何の意義がありません。此の意味に於て、蘇峰氏著『国民小訓』は最も權威あり、最も時機に適したものと存じます。修身書として、又国民読本としても立派なものと存じます。添付の新聞にも御覧の通り、多くの知名の教育家が一斉に推奨して居ます。御互に漸く廃れか、つた世道人心のため応分の努力を要する事は当然のつとめかと存じますので、かくは御薦めする次第で御座ります。

大正十四年三月

大倉邦彦



中華民国留学生招待会

五月十日〔中華民国留学生招待会〕

大倉学寮・一如洞主^③催、大倉邦彦後援にて、中華民国留学生招待会を催す。
懐しき故郷を離れ、遠く異国にあつて学に志す若き人々に、せめても家庭的な慰安を与へ度いといふ意味でのみこの会を催す。そこには、何等政治外的の意味を含まない純人間的の集ひであつた。

〔九月／図書館図書選択〕

世は秋に入った。予てより目論まれた図書館設立事業が漸く具体化して、生々とした活動が開始されて来た。こうした活動の渦中にあつて、吾々は全く超時空的であつた。吾々の一団が奏づる生命の交響楽は、あの秋の空に朗かに響き渡つた。

図書館事業の第一歩は、購入図書^④の選択であつた。之を専門の学者に依頼する事にした。

宗教	主任	木村泰賢
	助手	植木謙英
印度哲学		原田敏明
		大塚道光
	主任	木村泰賢
	助手	布施浩岳
神道		佐藤泰舜
		西 義雄
哲学		補永茂助
	主任	伊藤吉之助
教育	助手	大室貞一郎
	主任	乙竹岩造
倫理	助手	野々村運市
	主任	友枝高彦
心理	助手	神代峻通
	主任	高橋 穰
	助手	留岡清男

〔十月三日／圖書選扨主任の晩餐会案内状〕

拝啓 時下秋冷相催候処、愈御多祥奉賀候。扨先般來圖書購入に關し突然の御依頼申上候処、御多用の御身にも拘らず御承諾被下、感謝此事に御座候。就てハ御迷惑乍ら御近つき旁、来る十二日午後五時、拙宅に於て、粗餐差上度候間、万障御繰合せ御光來の程御願申上候。先は右御案内まで如斯御座候。敬具
尚、乍御手数同封の葉書にて御都合御一報被下度御願申上候。

十月三日 大倉邦彦

之は、主任の方のみを招待した時の案内状である。乙竹氏は都合悪しく欠席されたが、他の五氏並に酒井氏夫妻が臨席された。(圖書館の建築は、酒井コンクリート工業店に依頼してあった)

〔秋／圖書館研究所設立趣意書案〕

圖書館研究所設立趣意草稿

明治開国以來著しき欧米文化の輸入により漸く吾国は制度様式の完備を見たけれ共、徒らに外面的物質的の方面のみ重要視したため、人間活動の根源をなす精神的方面を看過し、日本民族精神の弛緩を來たすに至つた。現代社会の頹廢も民心の墮落も、皆こゝに萌してゐる。けれ共、所謂社会改造家は専ら制度様式を改変すれば社会は完全すべしと考へ、宗教も教育も政治も経済も崇高なる大義明分の精神を喪失して、空しく方法手段の末梢に躊躇してゐる有様である。かくては、何日か吾人の望む国家の理想が実現出来やうか。この難局を打開するには、何うしても各人の精神力を強く喚起して、其上に近代文化を建設するの外はないと信ずる。精神教育の必要はこゝにある。自分はこの目的を達成するために、先づ宗教・哲学・倫理・心理・教育方面の特色ある圖書館と之に附屬する研究

所を設け、之をして常に国民精神振興の源泉たらしめん事を期す。

〔十一月二十五日／図書選択に関する希望事項〕

拝啓 空冷の砌愈御清穆奉賀候。図書の選択に就きては一方ならぬ御尽力に預り候段、感佩罷在候。さて、図書館設立に関する小生の根本精神、既に御承知被下候事とは存候へども、図書御選択被下候上に幾分御参考までもと存じ別紙の如く念願申述置候間、何卒御参酌の上小生の事業御援助被下候はゞ欣快此事に御座候。敬具

十一月廿五日 大倉邦彦

様

追而

一、カードは月々取纏め御送附被下度候

一、図書館としては非備ふべき書籍にはA、第二位にはB、第三位にはCの符号を御添加被下度候

一、日本文化に関係ある書籍には圈点を願上候

研究所図書館設立之趣旨略記

一、神聖なる天皇並に祖国に赤誠を以て対する純真なる大和国民を作り度いと言ふ事が、研究所の最後の目的である。

一、この目的を達成するために

外面的には主義信念に乏しい政治家・教育家・宗教家・実業家の職業に囚はれ名利に走せて盲動する人々を精

神的に指導する事。

その手始めとして、研究論文を発表してこの目的の達成を助くる事。

一、内面的には教育・宗教等、精神界に一身を捧げんとする学者の研究に資する事。併し、学者者をして概念の遊戲に終らしめないために、言行共に国民に範を垂れんとする真の教育家・真の宗教家を出す事。深遠なる哲理に基いて日本国民文化の維持発展に貢献せんとする、真摯なる精神活動家を出す事。

一、人生の根本問題を没却して教授法や訓育論や管理法等の末節枝葉に拘泥する現今の教育者に代へて、熱と信念と人格とを植ゑ付け得る教育者を養成する高等師範程度の学校を設ける事も将来の懸案である。

一、此等学校・研究所に必要な図書館もこの趣旨に添ふものでありたい。無用な古書珍本を陳列したり、概念遊戲の材料であり度くない。又、徒らに図書の数量多き事がこの図書館の誇りではない。

一、従つて、図書選択の標準は

1. 精神文化史上著名なる大家の和漢洋原書

(例へば、プラトーン・カント等人物を中心としてその著述の一切を蒐集する事)

2. 或問題、又は思想を研究に關し代表的と認められる和漢洋原書

(この項は問題、又は思想を中心とするものにして、その著者の如何を問はず)

3. 此等原書の理解に必要な若干の名著

(例へば、紹介書、註釈書、又は訳本)

4. 精神文化に価値ありと認められる現代の著書、特に国民精神を鼓舞するに足るもの

5. 宗教・哲学・倫理・心理・教育に關する、最も權威ある定期刊行物

と定めたい。勿論、之は第一回の選択標準である。

一、図書館は、完成に至るまでは財団法人とせず、私有にして公開する考である。

一、図書館は、内面的には

1. 当学園研究員の研究に資す

2. 学者教授の研究のため、特に便宜な設備をなす

3. 同学者接触の機会を作る事に利用する

4. 斯道の研究、又は発表の場所たらしむ

5. 講演会を開く

一、更に、図書館完成の上は、研究者の便宜を計り、同敷地内に宿泊所を設置する予定。

〔秋／学生寄宿舍の設立〕

学生寄宿舍設立発起書

近代学校教育の弊は、徒らに知育体育にのみ偏して、学生の徳育を無視する点にある。將に国家の中堅たるべきものが浅薄なる人生觀と皮相なる社会觀を以て、あて途もなく学校より実社会に押し流されて行く。今日その数愈々多くして、国家は益累卵の危殆に瀕するのである。凡そ光輝ある吾国家の特質は徳化礼治にある。崇高なる人格の教養なきものが、如何にしてこの深遠なる国家生活の真髓を体得し、之が支持者たる事が出来やうか。学校教育の国家の要求に背く事、今日程甚だしきはあるまい。併し、独りその責を今日の学校教育のみに帰すべきではない。学校を以て将来一定の職業に就き社会に地位を得んための手段と考ふるが如き浅見なる現代の学生は、崇高なる人

格に対する仰慕がないのみか、知に対する真の憧憬すらもない有様である。こうした事情の下に、どうして意義ある学校生活が営まれ得るであらうか。

かくて味気ない学校生活を送る学生が、せめて家庭的な慰安を求めんと欲しても、現今の下宿屋又は寄宿舎は、営利に鋭く、情に冷たく、到底学生の要求を満たす事すら出来ない。学生の心は、自ら荒んで、遂には巷間遊里に低級なる快樂を追ふの始末である。

此故を以て、先づこの生活の革新なき限りは、彼等に向つて如何に国家精神を鼓吹するも、人格修養を提唱するも、何等の反響のあらう筈がない。

かゝる現状から何うして将来国家の中堅たるべき人物が生れて来やうか。誠に識者の憂慮に堪えざる所である。而も、現今の学制の下に之等の欠陥を補ふとせば、何うしても先づ学生の寄宿舎を改善し、此所をして真に生活の慰安所たり人格の修養所たらしめねばならない。敢て理想を言へば、燦爛たる靈性の輝きに接して自ら低級なる肉欲の快樂を一蹴し、そこに理想への翹望あり、そこに真理への憧憬あり、舍生悉く生命の諧調を合せて精進し、その一挙手にも理想の実現あり。その一投足にも真理の体現あり、遂には、莊嚴なる国家の生命に歸入して無限に徳を樹つる国民たらんとする、真摯なる学生の寄宿舎の設立が望ましい。

茲に於て余は、先づ都下に遊学する郷土佐賀の学生のためにこの種の寄宿舎を試みんとするの情切なるを覚ゆる。然れども、之れ固より余一個の私力に依籍すべきものではない。郷友諸君の熱心なる賛助を得、俱に同心戮力してその大成を期すべきものである。偏へに有志諸君の賛助を切望して止まない次第である。

〔秋／大倉学寮入寮規定案〕

大倉学寮入寮規定草案

一、目下専門学校以上の学校に在る者にして

一、品行方正、成績優良、身体強壯

一、思想穩健にして、国家のため一身を捧げて、精神界乃至教育界に尽瘁せんとする者は

一、在学々校の教官、又は学生監の紹介により

一、当方の詮衡を経たる後、入寮を許可す

一、入寮者は、寮の精神を理解し、他の寮生と共に共同一致の生活をなす事を要す

一、入寮者には住食を給し、更に本人の事情如何によりては月謝を給する事あるべし

市外目黒町中目黒六一四 (省線エビス駅より約十五分 目黒駅より約廿分)

大倉学寮

〔十二月／母校西郷小学校への講堂寄付〕

今夏より工事を急いで居た佐賀の西郷村の講堂が、愈々十二月十七日落成式を挙げる事になった。寄付の微衷、下記の如く然り。

講堂寄献之微意

今や物質ノ華、制度ノ備、其盛ヲ極ムルモノアリト雖モ、唯リ精神方面ニ至リテハ浮華放縱、亦収修スヘカラサルモノアラントス。不肖日本国民ノ一人トシテ遠ク前途ヲ想ヒテ、憂慮実ニ切ナルモノアリ。乃チ茲ニ講堂ヲ西郷村ニ寄献シ、以テ此類風ヲ矯回シ、愛国的国民教育ノ振興ニ資スルトコロアラント欲ス。西郷村や固ヨリ一小局地ノ

ミ。然レトモ泰山モ沙壤ヨリ成ル。若シ夫レ一簣ノ功ヲ挙クルヲ得ハ、不肖ノ欣快何物カ之ニ加ヘン。

大正十四年十二月 大倉邦彦

〔大正十四年度の育英事業〕

育英事業報告

一、既設ノ分

1. 富士見幼稚園

2. 目黒町中目黒字谷戸前九九〇―一二・一三・一四・五二

3. 大倉洋紙店社長、小田原製紙会社々長、東京金網会社監査役、大文洋行主 大倉邦彦

4. 土地 一四・八六七・〇〇円 植木垣根 五一二・八〇

建物 八・七五七・一〇 設備器具類 二一七〇・二九

附属工事 七九八・七〇

二、1. 大倉学寮

2. 目黒町中目黒字八幡六一四

3. 大倉邦彦

4. 目下大学生四人・生活費学資支給・出費月額約百五十円

三、予定ノ分

1. 精神文化ニ関スル図書館・研究所・附属学校

2. 目黒町中目黒字八幡六一四
3. 大倉邦彦
4. 第一期工事費約五十万円ノ予定



第三回民国学生招待会

〔十二月六日／第三回中華民國學生招待会の開催〕

早くやらうと考へてゐた民国學生招待会が、いろ／＼な事情のため遅れて、漸く十二月六日に催す事になった。

今度も趣旨は第二回の場合と少しも変わる所はない。服部さんの手を通して前回に來なかつた學生を招待した。

拝啓 日に増し寒さ相加はり候処、益御多祥奉賀候。陳者來る十二月六日午前十時より拙宅に於て、何の準備も無之候へとも、第三回華日學生の家庭的会合相催候間、万障御繰合せ御光來被下度、此段御案内申上候。

追而準備の都合も有之候間、御出席の有無折返し御一報被下度候。

十一月廿九日 大倉邦彦

大倉学寮

一如洞

心剣会

〔六月／勤王文庫寄附の支援依頼状〕

勤王文庫寄附文

国家興隆ノ本ハ国民精神ノ剛健ニ在リトハ、聖詔儼トシテ日星ノ如シ。吾人臣民タル者ハ益々之ヲ涵養シ、之ヲ振作シテ、聖旨ヲ奉体スルノ心掛肝要ト存候。曩キニ大日本明道会ノ編纂シタル勤王文庫ハ、皇道ニ関スル重要文書ヲ初メ、碩学志士ノ詩歌遺稿等ヲ輯録セシモノニ有之、今之ヲ県下各学校ニ備置キ候事ハ、精神培養ノ資料トシテ裨益不尠ト被存候間、今般聖上皇后両陛下大婚二十五年祝典ヲ奉祝記念シ、吾人有志申合セ、佐賀県知事ノ諒解ヲ得テ、全県下二百四個所ノ中等各学校及小学本校ニ対シ、教職員学生諸士及父兄会青年団等ノ訓育修養ノ御参考トシテ、各屯部宛寄贈致候条、御受納相成度、此段申進候也。

大正十四年六月

鍋島直映

鍋島直虎

高取伊好

〃 直和

〃 直繩

福田慶四郎

小笠原長生

大隈信常

北村七郎

大木遠吉

副島道正

赤司鷹一郎

佐野常羽

本野盛一

中村純九郎

鍋島直明

鍋島英昌

山崎四男六

村上格一

武藤信義

藤山竹一

水町袈裟六

村岡長太郎

大倉邦彦

藤山雷太

岡崎藤吉

田中次郎

森賢吉

弥富寛一

西久保弘道

伊丹弥太郎

大正十五年

〔一月十四日／佐賀県西郷村の精神作興会への援助金送付〕

佐賀県西郷村ノ僧侶、教員ヲシテ精神作興会ヲ作ラシメ、之二年三百円ノ補助金ヲ与へ、ソノ名ノ如ク実ヲ挙ゲシメント期ス

先般御申しました時はいろいろ御世話様になりました。其後皆様には何の御挨拶も申し上げず、失礼いたして居ります。

近時世相は、段々敬神の念や愛国心や国民相互の友情に乏しくなり、不徹底な党派根情や自己本位の感情のために正義を忘れるといふ風が益盛になつて参りましたので、此儘に捨て置くと、誠に祖国の前途が危ぶまれます。そこで、先づ脚元より之が改善を試み、国民精神の作興を計らうと思ひまして、皆様の御奮起を御願いたしました所が、幸ひ御賛同を得まして、誠に喜びに堪えません。それにつけて何彼の費用を要する事と存じ、その節御約束いたして置きました通り、年三百円づゝ適當の期間御送りいたす筈で御座ゐますが、先づ半期分として唯今金百五十円丈け御送金申しますから御受取り願ひます。

一月十四日

〔一月十六日／図書館図書選択の助手への招待状〕

図書館図書選択を依頼シタル助手方ヲ招待ス。

拝啓 厳寒の候愈御清穆奉賀候。陳者図書目録作製に就きては引続き御配慮に預り、誠に難有奉感謝候。折角志を
同うして共に精神事業を御援助被下方々と心からの集ひをいたし親交を温むるため、来る廿一日午後五時拙宅に於
て粗餐差上度候間、万障御繰合せ御臨席の程奉希上候。敬具

追而御来否折返し御一報被下度候

一月十六日

〔富士見学びの会の案内状〕

学びの会

家庭の婦人の向上進歩は、国の基をなす大きな力で御座います。世の中は、婦人の自覚でどの様に立派にもなるもの
のと思っています。然しながら、只今の御婦人は、家庭の中でそうした修養の機会や御稽古の時間をお持ちになる事が
難しい様に思われます。そこで私共は、その様な機会を作って皆様の御役に立つ様にと考へました折から、熱心な
方の御希望も御座りましたので、今度幼稚園を利用して毎週一回「学びの会」といふものを催す事に致しました。

修養講話と手芸（最初は洋服裁縫（割出し）から始め、順次其他の必要な手芸を学ぶ考で御座ります）を科目と致
しましたから何卒御来会下さい。

学びの会心得

場所 富士見幼稚園

時日 月曜日午後一時より四時まで

手芸 約二時間

富士見幼稚園長修養講話 約一時間

月謝 御願ひする手芸の先生の御礼を分担して頂きます（約二円位の見込）

申込 何時でも葉書、又は口頭で御知らせ下さい

市外中目黒九九〇

富士見幼稚園

〔青山学院からの修養講話に対する礼状〕

昨秋十月、青山学院の招聘を受け、同学院商科学生に対し数回に互り修養講話をなす。依て、右の如く感謝状来る。謹啓 時下愈御清康の段奉賀上候。偕、先般来当学院高等学部商科生の為め、御多忙中にも不拘数回に互り有益なる御講話を被成下、特に御体験上よりの活教訓は学生一同に多大なる裨益を与へ候事にて、本院に取りても誠に感謝の次第に御座候。右厚く御礼申上候。尚又御寄贈の小冊子『感想』は、夫々希望者に配付致し候。是亦御厚志の程難有御礼申上候。先は御挨拶迄に如斯御座候。拝具

大正十四年十月十三日 青山学院高等学部長 藪内敬之助

大倉邦彦殿

〔二月五日／建国祭案内状〕

来る二月十一日紀元節午前十時から当幼稚園でも建国祭を行ひます。此の日は神武天皇の御偉績を記念する我国特有の大祝日なのですから、之を単に形式の一祝日に終らせ度くないものです。近来我国の内外極めて多事の折柄、建国の大精神を復活して時代の弊風を一掃しなければならぬと思ひます。

当幼稚園は、こんな記念すべき日に御子様達にもこの精神を吹き込み度いと思ひますから、どうか御子様と一緒に

なつて御家庭の皆様も御揃ひ御来園下さいますれば、教育上誠に欣ばしき事と存じます。

二月五日 富士見幼稚園

様

〔二月七日／図書選択の取り纏め催促状〕

拝啓 余寒酷しく候処、益々御清穆の段奉賀候。陳者小生欧米図書館施設・宗教界・教育界視察のため、四月頃欧州に向つて出発いたす事と相成候処、予て御選択被下候図書は其の節彼地にて相求め度候間、目録の作製も一先三月末を以て終了被成下度、就ては御多忙中甚だ乍恐縮それまでに取急ぎ御纏め方御願申上度奉存候。

尚、買求に付カード整理の都合上、出来上りの分順次御送附被下度、此段御通知旁々御願申上候。敬具

二月七日 大倉邦彦

〔二月／視察要項概略の確認校正の依頼状〕

拝啓 先日書面を以て御通知申上候通り、小生儀四月早々渡欧の積りに御座候処、視察万端遺漏無きを期し度く、要項概略別紙に記載致置候間、御一覽の上、特に御氣付の点有之候はゞ枉げて御教示賜り度、尚又彼の地に於て何か便宜御取計ひ被下候はゞ幸甚に奉存候。右不取敢懇願迄。早々頓首

〔二月／紀元節での国旗掲揚の呼び掛け〕

近來祝祭日に国旗を掲げる人もあり、掲げない人もあつて、まち／＼になつて居る様ですが、祝祭日に国旗を掲げて心から祝ふのは国民としての義務と思ひます。

就ては、来る紀元節を機として祝賀の誠意を表し、光輝ある日章旗をして一層の榮あらしめたいと思ひます。

一、様式

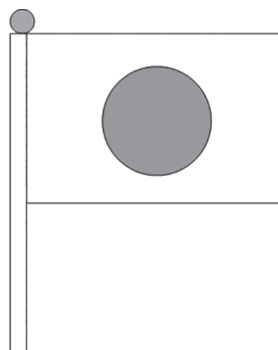
旗地ハ縦「二」横「三」ノ割合

日章ノ直径ハ縦ノ「五分ノ三」

日章ノ色ハ鮮紅

一、掲ゲ方

祝ヒノ旗ハ球ト密着シテ離サヌコト



〔二月二十七日／渡欧送別会の開催〕

拝啓 余寒料峭の砌益々御穆奉賀候。陳者小生渡欧以前親しく御伺申上、何かと御教示蒙り度候処、彼れ是取紛れ時日接迫致し其の意を得ず候為、来る廿七日午後五時半芝区琴平町二番地晚翠軒に於て、留別旁々御高話拝聴致度候間、御多忙中恐縮の至りに御座候へ共、御光来被下候はゞ難有奉存候。敬具
追而御出席の有無折返し御一報被下度候。

二月十九日

大倉邦彦

様

〔大正十五年／昭和元年は記事なし〕

昭和二年

大倉氏帰朝歓迎会（一月十六日 日曜）

今度欧州各国に於ける精神運動及図書館、学校等の視察を終へ、帰朝せられし大倉氏の歓迎会を富士見会主催の下に催す。

午後二時に開会。先づ大倉氏の欧州各国に於ける精神運動の傾向、及日頃説かれる宇宙心につき御話ありて、後芝生にて記念の撮影をなし一同夕食を頂く。



大倉氏帰朝歓迎会

会員の感想談に大いに熱が上がり、余興に入り歛を尽して夜九時頃散会した。

昭和二年一月十六日 富士見会

昭和二年二月十一日 建国祭ノ日

『感想』（其ノ三）ヲ発刊ス。

二月十二日

郷里帰郷、講演^⑥

神埼郡教育者（教育会）全部

神埼郡宗教家坐談会

西郷村青年処女一般講演

東背振村青年処女一般講演

仁比山村青年処女小学生徒一般講演

神埼町処女会（神陽女学校舎）講演

姉川青年（一夜）日新会（一夜）婦人会（一夜）話

西郷小学校生徒全体ニお話

佐賀県立中学校全生徒講演

佐賀県立高等女学校全講演

〃 清和女学校全講演

〃 成美女学校全講演

佐賀紡績株式会社男工女工（幹部）講演

此ノ他小話ハ数回

二月二十七日

帰京途中、下関ニテ「フィンランド」ノ人、ワイニオ氏ヲ送ル。

〔三月九日／『感想』読者への書翰〕

心の手紙

心の友として交る気分の豊かさは、物質や地位をのみ追求めて目を尖らして理窟を云ひあつて居る人々の味ひ得ない所で御座います。何とかして人間本来の要求である幸福をば総ての人々の上にも授かる様に、先其の基礎を精神的方面に置いて、其の上に地位や物質を求める方が遙かに容易だと自覚せしめ度いもので御座います。世間は、先入主となつて是を引もどす事が困難な様に見えますけれども、私共は確信致します。正しき願ひは叶ふ。それは、宇宙の大をも動かして居る無限の力が現存して居るのですから、愛の戦に向ふ戦友は、安心と確信を以て各自の熱を燃してさへ居れば総ては成し遂げられます。熱は力で御座います。

あの拙著「感想」小冊子に共鳴下さいまして御利用御頌配願つた為に、反響が多い事は私の手許に山の如くに集まる各方面からの御手紙を見ても明で御座います。あなたの御力で、否宇宙の力の伝達者となつて、精神運動に御尽

力下さいまし。日本民族の為、人類の為に現代の風潮をよく知る人が、こんな仕事に力を入れても効能が少からうとか、困難だらうとか申しますけれども、そんな世の中であればある程、尚更此使命を感じなければなりません。御互ひに燃えて薪になりませう。薪になるには、先つ切られて乾かなければなりません。私共は養ひ、磨き、深められて宇宙心を体得して神の事業に参加致します。不思議な無限の力は、宇宙に充ち充ちて居ります。是は御送り下さいました御手紙に対して御礼のつもりで此の手紙を差上げました。謄写で甚だ失礼の程を御許し下さいまし。さようなら。

昭和二年三月九日

此の手紙は『感想』を發刊して（一・二・三）頒配した所、各方面の各地方からその反響として続々共鳴感奮したるとの熱心家・指導者の手紙に対し、励ましの言葉のつまりで書いたものである。

三月十二日

神田基督教青年館に於いて、信者の集り、四十人に講演をなす。

三月十六日

町田徳之助氏宅、一如会（禪研究会）に於いて講演。

三月十八日

洋紙店社員一同に、次の如き手紙を發送す。

毎日御目にか、つては居りますけれども、ゆつくり落付いて御話する事も出来ませんから手紙で申上ます。

私共御互ひの生活には生活の向上を希望する事は勿論です。世間の人は往々にして、生活の向上とは以前より勝つた良い着物や洋服を着けたり、御馳走を食べたり、芝居や活動写真を見たり、諸道具を買求めたりして、一見富裕な生活状態に見える事を生活の向上と考へて居る様に見えます。然し、私はそれが生活の向上とばかりは思ひ度くありません。寧ろ人間に附滞した物の高価生活ではなく、人間としての価値を向上せしむる事、言ひ換へれば心の内容充実した人間である事が本当の意味に於ける生活の向上と信じます。心の内容豊富な生活とは、持ちものや見るものから来る楽しみでなく、豊かな気持、うらかな気分、同僚や家族、同志や世の中の人々に接し合つて、人をもそんな気分になさせて、自他共に喜び合ふ様に修養もし、又必要な読書もする心懸けが肝要と存じます。ところが稍もすれば、商業に従事するものは、単に月給生活をする人々より賞与金で余祐がありますと、遂ひ人間内容の向上は忘れて、衣食住の高価生活に引込まれ勝になる現代風潮で御座います。そして、貯蓄の高など考へずに先の収入をあてにして置いた物を取る様に気楽な考へばかり持たります。

店につながる御互ひは、これ等の点に注意を怠らすやつてゐる積りなんですけれども、人間の弱点として、はたから制肘される事なしには世間並に引ずられ易いから、自分自身が自発的に真実な気分で考へてみやうではありませんか……。

震災後の痛手や一般不景氣の為に、事業界は身を切る様なつらい状態を続けてゐる人が殆ど全部と云つて差支えない位です。まして働き場所さへ無く、喰へない失業者さへ多々あるを見せつけられてをります。

それこれを思ふ時靜かに考へて見ますと、物質的生活を切りつめ、気分生活に入る事に心を向けて下さいまし。一人でこんな事を考へてゐると、余計な御世話の様ですけども、失礼を顧みずこんな手紙を差上げたい気分にな

りました。左様なら。

三月十八日

大倉邦彦

三月廿三日

日比谷大神宮に於て、神道学者及び神主の会合たる斯道懇談会に講演をなす。

三月二十四日

目黒実科高等女学校の卒業式に講演をなす。

三月二十五日

富士見幼稚園卒業式に於て、児童の保護者に講演をなし、次の如き刷物を配附す。

い、学校の教育を受けさせ様とするならば、教師を選ばなければならぬと云ふことは明らかな事です。同様に子供によき家庭教育を施そうと思ふならば、よき母親であらねばならぬ事も勿論です。

よき教師を選ぶと云ふ意味は、物知りであると云ふ事を意味するのではなく、人格の上に必要に應ずるだけの事を知っておればそれでよいので御座います。

よき母親と云ふのも亦同様で御座います。

取分け家庭教育は、学問や知識を教へる学校の教育よりも、もっと根本的な人間としての土台をつくる事で御座いますから、そんな重大な家庭教育をどうしてすればいい、かと云ふ事は、母親として一日も片時も忘れてはならない

事で御座いますまいか？母親のその時／＼の言語挙動が子供に映ずる事が感化なのです。その言語挙動に不自然があれば不自然な教育を子供に施す事になり、軽率な言語挙動は子供に軽率を教へる事になり、感情の動くが儘に考へもなく行つてゐる様な事は尚更強く子供の頭に映るので御座います。

それ故に、よき教育をする為には、母親自身の修養の一点に帰すると云ふ事が言ひ得られます。

家事に没頭して忙しさの余り無意識な個性を発揮する様な事が無い様に、円満な常識を持つて自分自身が家事に従事して居ればよい、ので御座います。

そも／＼、家庭は自分の住家であるだけ、外部の人に接する時の様に体裁もなければ多く考へる事も御座いけませんから、誰もが我儘を言ひ合ふ場所となり勝で、一番修養をする根城であるに關はらず、反つて正反對な言語挙動をするから、最も注意しなければ尊い家庭教育を自分自身が破壊する結果になると云ふ事を心の底に持つてゐなければなりません。

多くの人は、聞いたり見たりした時には本当にそうだと心にうなづき、明瞭に意識してはおりますけれども、さて事に出会ふとどうしても忘れ勝になりますから、言換へれば、知つてゐると云ふ事を實際行ふと云ふ事と伴ふ事が甚だ困難な事で御座いますから、どんな智識がありどんな欠点がなと思つてをる人でも、かう云つた様な点に注意を怠らない様に修養しなければなりません。

子供には言つて聞かせるよりも、やつてゐる事を見せる方がもつと印象が深う御座います。子供の側にゐる時は、監督者の側にゐる時の様な気持ちを持つた方が寧ろいい、だらうと思ひます。可愛がりたい時は自分の気の向いた通り猫可愛がりをやつて、何か他に氣持の悪い事でもあるとその氣持を子供に見せたり、甚しきは子供に不快な顔をして小言を言つたりするから、特に慎まなければならないと思ひます。

家庭に於ける婦人は、多部との接触が少ないと、毎日する事が同じ様な事ばかりですから、尚更氣持が単調になって、少しの事から氣持を悪くしたり腹を立て勝ではなからうかと思はれます。

元來家庭の婦人は、母性愛を中心に柔い温い氣分で子供や夫に接し、柔い温い氣分で仕事に従事するならば、自然により氣分は湧いてくる筈なんです。そうして、暗闇を歩く様な氣分から朝日を望む時の様な明るい氣分になる事も出来ます。柔い温い氣分を持つて家庭の人は勿論外部の人に接するといふのは、それが本来母として持つてゐる母性愛なんです。それを色々な物に妨けられ、壊されない様に注意しなければならないのは当然なので、又自身自身の本来の持物を自分で培ふ事なので、無理でもなく苦しみでもなく出来得べき事だと思ひます。

種を蒔かうとするなら地床を拵らへなければ、乾き切った肥料氣のない所では芽生へも出ないと同様に、自分の心の地床を拵へる事が先づ最初の條件で御座います。心よき地床にしようとするには、先入と偏見を取去る事が最初です。何人も個性がある通りに、その人丈特に固く思込んで、容易に変らないかたくな考へ方を取去つて、鏡が物を写す様にありの儘を正しく見るならば怒る氣分にもなれないし、わけもなく苦しみや悩みを感じる事も御座いません。

婦人は美しい情緒がある半面には感情的に動き易いから、稍もすると心を乱され勝になりますから、理窟だけでは之を矯正する事は困難な場合も御座います。ですから、人間以上の力を人間の力として表すところの信仰を御勧めしたいのです。私の云ふ宗教は、死後の極楽や地獄を振翳して現世の倫理道德だけを説く様な意味のものではなく、人間の力で及ばぬ所を仕遂げる力を出し得る様な確信が持ちたい為です。ここで宗教の話に入りますと話が長くなり混雑しますから、何れ御話する機会を待ちませう。先程から理窟や理性の方面から心の持ち様を申上しましたが、も一つ他の方面から目的を達成させる肝心な方法が御座います。それは、形式又は行ひと言ふ事で御座います。例

へば、朝起きてわざ／＼子供の見てゐる前で御主人や御老人に丁寧なお辞儀をして「御早う御座います」と言ふ事や、食前には三十秒でも瞑想や御祈りをする事や、食後に感謝の意味を表すお辞儀をする事や、食事の時はどんな場合にも晴々した気持で喜び合つて食べる事や、進んで人に親切にする事等、こんな簡単な事でもその為^に其他の場合迄も乱雑にならず、愉快な気持を知らず／＼持つ習慣となります。或は又、祝祭日に国旗を掲げて、今日は国の御祝ひ日だからと言つて赤御飯をたいて気持のいゝさわぎをする事は、子供に形の上から愛国心を教育する事になります。眠くとも居眠りしなかったり、特に喜びさわいで御主人の御帰りを迎へたり、送り出したりする事は、家庭全体の気分を浄化する事になります。

こんな様な事をきまり切つてやつて居れば、自他共に喜びに満ちて参ります。こない、習慣を一つより二つ、二つより三つとふやして行く様に心がくれば、子供の教育はおろか親爺^{オヤジ}教育にまでもなつて、その家庭の生活は隣^{ナリ}の家庭の見本となります。

芙蓉荘 開設 昭和二年四月廿九日

慶應義塾内に永い歴史を持つ養真青年会⁷の学生の寄宿寮で、一軒の家を提供す。

四月十九日

日本貿易協会ニ於テ、左ノ演題ニ関シ講演ス。

「宗教ヨリ見たル英独並ニ日本」

(四月)

一高寄宿寮 朝風寮開設

日本精神文科研究ヲ目的トスル瑞穂会⁽⁸⁾ノ集会所兼寄宿寮

五月十日

東京市有力ナル印刷会社ノ会合、十日会ニ講演ヲ依頼サル。

六月六日

芙蓉荘に於て、午後五時半より、養真會員開莊祝ひの趣旨で会合した。

六月十二日 日曜

第五回中華民国学生招待会を催し、一日を愉快に過した。

初夏の時節になりまして郊外は一入心持よくなりました。来る六月十二日(日曜日)拙邸に於て、例年の通り第四回中華民国学生招待会を催し度いと存じます。勿論家庭の事ですから何の設備も出来ませんが、お互の持よる気持で愉快に過し度いと存じますから御出下さいませ。

場所 目黒三田五四 大倉邦彦宅

時間 午前十一時



第四回中華民国学生招待会

大倉邦彦

様

六月十三日

千速婦人会に依頼されて講演をなす。

六月廿八日 火曜日

午後七時半より、自宅に於て、今成禪師に依頼し、第一回宗教講話会を催し、仏教の根本に関する御講演を聞き、講演後、先生の御指導により聴講者一同十分間坐禪をなしたり。

出席者 富士見会員三十名

九月三日

軽井沢に於ける女子大学修養会を視察した。

九月七日

午後七時より、自宅に於て、瑞穂会の例会を開き、本学期の行事に関し懇談したり。

昭和二年九月十五日 木曜

午後七時より、友松円諦氏に依頼して、第二回宗教講話会を富士見寮に於て開いた。「仏について」。氏の平易な、而も熱のある講話に得るところが多かった。来聴者、富士見会員及大倉洋紙店員多数、盛会であつた。(出席者六十名) 講話内容左ノ通り

仏とその以後

第一節 仏について

一、釈迦といふこと

二、彼の家庭と周囲

三、出家とその動機

四、苦行六年

五、樹下成道

六、釈尊に現はれたる「ほとけ」の生活

(イ) 平凡なる一面

(ロ) 非凡なる一面

仏目―不執正見

佛足―不著遊行

仏心―不輕尊重

佛食―応供羅漢

仏名―世尊礼拝

七、彼の思想について

(イ) 無常について

(ロ) 無我について

(ハ) 無著について

(二) 無相について

八、彼の死

来る十五日（木曜）午後七時より、富士見寮に於て、慶応義塾教授友松円諦氏（若い元氣な近代的浄土宗の僧侶で、斯道の造詣も深い方であります）の仏教講演を依頼致しましたから、御来聴お勧め致します。

九月十一日 目黒三田五四 大倉邦彦
様

九月廿六日

午後七時より、富士見寮に於て、今成禪師に依頼し、第三回宗教講話会を開き、「禪について」と題して、約三時間講演あり。富士見会員及大倉洋紙店員約六十名。十時頃散会した。

十月五日 水曜日

友松円諦氏に依頼し、第四回宗教講話会を富士見寮に開いた。「仏とその以後」の「その以後」について御講演あり。富士見会員、大倉洋紙店員及女子大学より多数出席あり。五十名程で盛会であった。

十月廿八日 金曜

今成禪師に依頼し、第五回宗教講話会を大倉学寮に於て開いた。禪の立場についての御講演を聞いた。聴講者約四十名あった。

十一月七日 月曜

名古屋桜楓会主催の成人教育講座にて、左の講演をなす。

「人間の宗教」

十一月六日 火曜

豊橋市青山氏夫妻の経営になる不良少女感化院⁽⁹⁾を参観す。

十一月廿九日 火

一ヶ月程前から絶え間なく聞えて居たノミの音が止んで、お庭の東側に講堂が竣成された。

此の木の香の新しい講堂で、今成禅師の「法界自澄教」に就いての演題の下に、第六回宗教講話会が午後六時半より催された。

朝から降りつゞいた雨にもかゝらず、約八十名の多数参会者があつた。

十一月廿日 水

午後一時から、原田老師にお出を願つて、第七回宗教講話会を開催した。参会者約廿人。

仏教の大意に就いて一時間余に渡る御講話があつた。

御講話大意

「仏陀が正覚された時『奇なるかなく、一切衆生皆如来の智慧徳相を具存す。然れども、大悟大徹⁽¹⁰⁾せざるものは

天道盲想の故に知る事能はず』と仰せられた様に衆生本来仏性である。只正覚しないからそれを知る事が出来ないのである。目覚めんとする悶えが思想の第一歩である。

仏教の教へは平易である、幼子にも分る様な事である。而も、それを実行する事は難いのである。理想は高く置いて足下から清浄にして行かなければならない。」

十二月十九日

同じ目的の下に進まふとして居る学生の団体が、時々催される宗教講話会等と同じ堂には集るが、未だお互に意見の交換をなす機会もなく親しみがうすいので、お互にお互を知りあい、共に進まれん事を希望して、学生の思想発表会が催された。会合した団体は、帝大一高の瑞穂会、慶応養真会、慶応仏教青年会⁽¹⁰⁾、高師月松会⁽¹¹⁾、大倉学寮にして、それ〱其の信念、社会批判、抱負等に熱弁を振ひ盛会であった。各々心の中に互にふれあふ喜びを感じて十時閉会した。

プログラム

商大 藤沢伊之助氏（学寮）

高師 浜名儀一氏（月松会）

川野美子

慶応 川本六郎氏（養真会）

一高 松本重雄氏（瑞穂会）

一高 依田貞三氏（同）

帝大 古池信三氏 (同)
慶応 高木秀巖氏 (仏 青)

十九日午後六時半から今成禪師の講話会を開く様に通知申上げましたところ、同師の突発事故のため講話中止する事になりましたから、左様御承知下さいまし。其の代り、兼て予定して居りました帝大一高の瑞穂会、慶応養真会、並に学寮学生諸君の講演会を十九日午後六時半から開きますから御出下さいまし。

若き学生諸君の思想傾向を御聞取り下さる事も御参考になる事と存じますから、御友人御誘ひ合せ御出下さいまし。

十二月十七日 大倉邦彦

十二月廿六日

高千穂中学校に於て「禪と修養」に就いての講演をなす。

昭和三年

一月三日

帰郷。村民の歓迎会を受く。

一月四日

日新会、青年会、処女会の会合に於て精神講話をなす。

一月五日

農村工芸学院開院式、挙行。

一月七日

二比山小学校に於て講演。

一月八日

西郷学生同窓会に於て講演。

一月九日

西郷村の北方、草ろう庵にて講演。

一月十八日

ロータリークラブ（昼）及び紙商同業組合（夜）にて講演をなす。ロータリークラブに於ては奉仕の理想に就いて。

一月十七日

午後六時半より、今成禪師に御出を願ひ、新春第一回の（つゞき第九回）宗教講話会を聞く。

一月廿八日

午後六時半より、原田老師の宗教講話会。善惡の標準についての御講話があった。

御講話後、座禪の御指導を願つて有志の者が座つた。

二月六日

午後六時半から、今成禪師の宗教講話会が催された。前回に引つゞき、人間の根本要求から宗教を求める過程をおと
きになって、喜心についての御熱烈な御講話であった。御講話座禪の御指導をうけた。

二月廿八日

丁度天岫禪師が前橋市よりの御帰途御立寄になったのを幸、御願ひして宗教講話を伺ふ事にした。六時半から九時ま
で約二時間半に互つて、文化と信念の題目の下に有益な御講話があった。

大要

現代は文化時代であるとは一般に云はれて居る言葉である。併し果してどれだけの人が真の文化を解し、文化的生
活をして居るだらうか？現代人は文化を浅薄に外形に応用して居る。併し真の意味に於る文化は自己耕作、即ち修
養である。真の文化生活は信念生活である。

学問は進み、科学は進歩した。併しそれによって知り得る事は、宇宙の極少部分にすぎない。残りの大部分は信によつて知るより外ない。

宇宙と自分と只一如になった時、真に宇宙を知り得るのである。我々が川の水を見て美しいと云ふ。併しその時には川と我、宇宙と我とは別箇のものである。川の中にとびこんで川の流と共に進む事が、宇宙の進化と共に進むのである。落葉の様に漂ひながら進むのではない。「流水打球子」で低くなり高うなり躍動しながら進むのである。其処に於て初めてエターナルライフがあるのである。

支那の語に象、馬、兎の川渡りの方法を云ひ表したものである。兎は川の表を打って渡り、馬は表と底の中間をうまく泳いで渡り、象はどつしりと底に徹して渡る。人生の歩き方は象の如きでなければならない。徹底して流れるのでもなければ流されるのでもなく、宇宙と一つになって流水打球子如く生きねばならない」⁽⁴⁴⁾

三月十六日

午後六時半より、今成禪師の講話会を開く。喜心、老心、大心に就いての御講話を聞く。

三月三日

日本宗教大会々計主任として斡旋す。

三月十九日

隅田川合同運送会社並に隅田川駅員に、隅田川駅楼上に於て講演をなす。

三月廿日

幼稚園卒業式。

母の会への御話。

十一日会に於て講演。

四月十八日

午後七時より、今成禪師の宗教講話会を開く。御講話後、座禪の御指導を願った。

四月廿八日

第二回の学生意見交換会を開き、席上三月下旬欧州より帰朝された原田氏の御感想談があつた。若き血に燃ゆる人々の祖国を思ひ、自己の人格の向上確立を願ふ、真摯な純な熱情的態度には、一同何物か感じさせられる所があつた。

プログラム

高輪中学 牟田直氏 大倉学寮

慶大 山本氏 養真会

帝大 藤井斉氏 瑞穂会

慶大 大塚英雄氏 養真会

明大 洪川善助氏 瑞穂会

慶大

仏教青年会

高師

副島羊吉郎氏
松月会

原田三千夫氏

四月十四日

午後七時より、今成禪師の普勸座禪義〔儀〕¹²に就いての御講義があった。
後、例の通り三十分座禪した。

六月廿日

午後七時より、今成禪師の普勸座禪義〔儀〕の御講義があった。

六月卅日

午後七時より、原田老師の「禪の決疑」に就いての御講話があった。

九月十七日

午後七時より、今成禪師の普勸座禪義〔儀〕の御講義があった。

長野県臼田修養会にて講演をなす。

十月廿一日

第六回中華民国学生招待会を催した。

変調つゞきの近頃の天候に今日も祟られて、朝から雨が降りつゞいた。

餅会がおでんの昼食に始つてから、お互の醸し出す和やかな空気が外界の天候等には少しも支配されなかった。皆心から愉快に、共に手を取りの歌詞をそのまゝ親しく語り遊んで散会した。

会後、更に朝風寮、芙蓉荘の皆様と第二次会を開き、意見発表をなし有益な時を過した。

案内状 日本学生へ

来る廿一日（日曜）午前十一時半より拙宅に於て華日学生懇親会を開催いたしますから、万障御繰合せ御来会下さい。

十月十六日

市外目黒三田五四

大倉邦彦

中華民国学生への案内状

拝啓 秋冷の候と相成候処、愈々御勇健の段奉賀候。扱例年の通り、来る廿一日（日曜、晴雨不拘）午前十一時半より当方に於て民国学生諸彦御招待申上度候間、何の風情も無之候へ共、万障御繰合せ御来駕被下度、此段御案内申上候。

中華民国学生招待会プログラム

一、開会

一、昼食

一、挨拶

一、民国学生御話

一、有志御話

一、余興

幼稚園児の遊戯（雨天中止）

団体余興

皆で仲よく手をとって

椅子とり

一、記念撮影（雨天中止）

一、お三時

一、有志余興

一、競争

若返り競争

大原女

亀つり競争

一、お土産進呈

一、閉会

十月卅日

午後七時より、原田老師の「大乘仏教の信条」に就いての御法話があった。

十一月十日

今上陛下が天津日嗣の御位に即かせ給ふ今日の佳き日を寿ぎ奉りて、午後七時より御大典奉祝会を開いた。

中央に御真影を奉安し奉り、聖寿万歳の金文字と白の鳳凰を現した古代紫の幕を垂れ、四方に紅白の幕をめぐらして堂内には莊嚴の気が満ちて居た。

次に掲げる順序で式は進行され、今泉先生の御大典に関する御講話に、其の御儀式の神々しさを偲び奉る事が出来た。参会者は堂にみち、非常な盛会であった。

式次第

一、一同着席・敬礼

一、君が代

一、大倉氏御話

一、今泉貞介氏講演
(定助)

一、御大典奉祝歌

一、閉会

十一月廿日

午後七時より、今成禪師の普観座禪義^{〔儀〕}の御講義があつた。

十一月卅日

午後七時より、原田老師の「世界は絶界なり」^{〔色〕}の御法話があつた。

十二月四日

午後七時より、天岫禪師の「人間の価値」に就いての御講話があつた。

昭和四年

一月廿二日

午後七時より、今成禪師の普観坐禪義^{〔儀〕}の御講義があつた。

一月廿六日

午後三時より、昨年の夏ジュネーヴに開かれた国際宗教大会に日本を代表して出席され、最近帰朝された友枝教授の御講演があり、引つゞき毎月の宗教講話会に御見えになる人々との懇親会を開いた。初めに各宗の理想の発表あり、

それから三分間演説に移り、十時近く散会した。出席者約五十名。非常な盛会であつた。

案内状

来る廿六日（土曜日）午後三時より、拙宅講堂に於て最近欧州より帰朝された友枝教授の御講話があります。同教授は帝大並に高師に教鞭を執られてゐる方ですが、去年の夏ジュネーヴに開かれた国際宗教大会に日本を代表して出席されたのであります。

講話後簡単な夕食を差上げ、朝風寮、芙蓉荘、月松会、明世寮、大倉学寮の学生諸君と宗教講話会の方々との懇親会を開きたいと思ひますから、万障御繰合せ御出席下さい。

追て準備の都合がありますので御出席の有無同封の葉書で折返し御通知願ひます。

昭和四年一月十九日

大倉邦彦

一月卅一日

午後七時より、原田老師の御法話があつた。

二月十七日

兼て計画中であつた日曜学校を、今日から幼稚園に於て開始した。此の日曜学校は、現代の機械的学校教育から来る弊害を除き、人格と人格の接触によつて児童の本性をよりよく伸し、宗教的情操を養ひ、国家観念を植えつけやうとの目的のために開かれたもので、大倉家庭の者の外、朝風寮、芙蓉荘の学生諸氏が指導の任に当る事になった。八時半頃から続々と児童が集り、九時半に振鈴して一同集つた時には八十名のぼつた。

これだけ多くの児童の生命を導いて行こうとする者は、其の責任の大なる事を感じ、自らなる緊張を感じた。

二月廿一日

午後七時より、今成禅師の普観坐禅義^(儀)の御講義があつた。

二月廿五日

午後七時より、相互修養団の請ひにより講堂に於て、修養講話をなす。

三月一日

午後七時より、原田老師の御法話があつた。

三月廿日

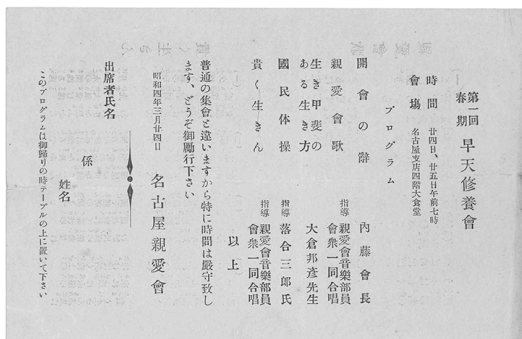
午後七時より、今成禅師の法話があつた。

三月廿四日及廿五日

東邦電気株式会社名古屋支店、同岐阜支店、四日市支店に於て精神講話をなす。

〔別紙・印刷物①表〕

第一回
春期 早天修養会



時間 廿四日、廿五日午前七時

会場 名古屋支店四階大食堂

プログラム

開会の辞

内藤会長

親愛会歌

指導

親愛会音楽部員

会衆一同合唱

生き甲斐のある生き方

大倉邦彦先生

国民体操

指導

落合三郎氏

貴く生きん

指導

親愛会音楽部員

会衆一同合唱

以上

普通の集会と違いますから特に時間は厳守致します。どうぞ御励行下さい。

名古屋親愛会

昭和四年三月廿四日

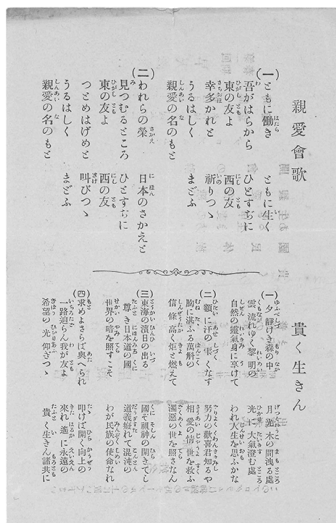
出席者氏名

係

姓名

このプログラムは御帰りの時テーブルの上に置いて下さい。

〔別紙印刷物①裏〕



親愛會歌

(一) ともに働はたらき

吾わがはらから

東ひがしの友とも

幸多さちかれと

うるはしく

親愛しんあいの名なのもと

(二) われらの榮さかえ

見みつむるところ

貴く生きん

(一) 夕ゆふ静しずけき森もりの中なか

雲くも流れゆく黎明れいめいの

自然しぜんの靈氣れいき身に享うけて

額ひたいに汗あせの雫しづくくなす

胸むねに湛たふる万斛ばんかくの

信条しんぜう高く炬きと燃もえて

東海とうかいの浜日ひんの出る

尊たかき日本道にほんみちの国くに

道義だうぎ廢すたれて混沌こんとんの

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

貴く生きん

四日市支店 昭和四年三月廿五日正午

講師大倉邦彦先生紹介

大倉先生は大倉製紙の社長でありまして、実業家としても名高い方です。先生は、日本が維新以来物質文明の吸収に汲々として精神文化の啓発を怠つてゐたことを痛く嘆かれ、私財を投じて日本の精神指導に力を尽くしてゐられます。最近五十万円の私費を以て精神科学図書館建設の計画を立てられ、その為め欧米を御視察なされました。又、幼稚園と二つの学生寄宿舎等を目下経営なされて、幼き子供や若き学生の指導に努力してゐます。

我が親愛会でも先生の著『感想』を数回御分ち致しましたから、已に皆様は『感想』を通して御存じのこと、存じます。

貴く生きん

(一) 夕静けき森の中

雲流れゆく黎明の

自然の靈氣身に享けて

(二) 額に汗の雫なす

胸に湛ふる万斛の

信条高く炬と燃えて

月光木の間洩る処

光に太氣澄む処

わが人生を思ふかな

努力の歎喜君知るや

相愛の情世を救ふ

濁悪の世を照さん

(三) 東海の浜日の出る

尊き日本道の国

世界の暗を照すこそ

(四) 求めよさらば与へられ

一路辿らん我が友よ

希望の光仰ぎつゝ

国ぞ祖神の開きてし

道義廢れて混沌の

わが民族の使命なれ

叩けば開く向上の

来れ遙に永遠の

貴く生きん諸共に

昭和四年三月

名古屋親愛会

三月廿九日

農村工芸学院卒業式に出席の為帰郷。

四月一日

農村工芸学院入学式、挙行。

佐賀県融和事業協会聯合会に講話。

四月一日

午後七時より、原田老師の白隱和尚の和讃⁽¹⁵⁾の御講義があつた。

四月廿日

午後七時より、今成禪師の法話を聞く。

四月廿五日

神宮奉斎会に於て、午後五時より講演をなす。

五月一日

午後七時より、原田老師の講話会を催す。

五月十六日

午後七時より、今成禪師の法話を聞く。

五月十七日

午後四時より、帰一協会¹⁶に於て、社会教育家に対する希望と予の体験の演題の下に講演をなす。

五月十九日

午後三時より、中華民国学生及比律賓大学籃球選手の招待会を芝生で催す。

タゴール翁も出席されて盛会であった。

六月一日

午後七時より、講堂に於て、原田老師の御法話を聞く。坐禪讀の連続講話。

六月廿六日

午後七時より、講堂に於て、今成禪師の宗教講話会を開く。出席者約七十名、盛会であった。因果説に就き、専門的、禪的な御話があった。

八月十五日

名古屋の松坂屋支店に於て、店員一同に精神講話を為す。

十月五日

午後七時より、講堂に於て、瑞穂会員の研究発表会を催した。

十月十二日

竹中組従業員並にその関係者約百五十名に、「安価なる常識を打破せよ」の題下に講演をなす。

十月十六日

午後一時より約一時間半に亙り、目黒警察署に於て、警官百名に講演をなす。

演題「自我の本質とその使命」

十月廿一日

午後七時より、講堂に於て、今成禅師の宗教講話会を開く。

「諸仏の實在」及び「感応道交」に就ての講話を聞く。

十一月二日

午後七時より、講堂で、原田老師之法話を聞く。以前から続いてゐる「坐禅讃」の講義。

因果一如について御話あり。

十月卅日

日暮里警察署に於て、講演す。

講演旅行

十月卅日に東京を出発し、途中大阪に寄り、四国に渡り数ヶ所講演をなし、終へて学院に行つて生徒と起居を共にし、毎日講話をなして、十一月十七日帰京した。⁽¹⁷⁾

十一月八日

吉田町幼稚園及小学校にお話。

十一月九日

大分県佐伯中学校に於て、生徒一同に講演。

十一月十日

学院に至り五日間滞在、毎日三回宛生徒に講演。

右期間中、三、四回地方に講演。

十一月七日

午前八時より、愛媛県北宇和島郡宇和島町小学校に於て、生徒一同に講演。

午前十時より、宇和島中学に於て、午後二時より、女学校に於て、講演をなす。

十一月十八日

午後七時から、講堂に於て、今成老師の講話会を開く。

十二月一日

午後七時より、講堂に於て、原田老師の本年最終の講話会を開く。出席者八十名。盛会であつた。

十二月二日

昨夜に於て、今夜は今成老師の法話会を開く。出席者六十名。これで本年の宗教講話を終つた。

十二月十一日

午後七時から、講堂に於て、明世寮創立記念会を開き、寮生一同に宇宙心を講じ、寮の趣旨、寮生活の意義、その具體的方法に付き講演をなす。

十二月十六日

午後六時半より、洋紙店三階大広間に於て、河西陸軍中將に依頼して「乃木大将のお話」を聴いた。洋紙店関係や研究所関係の人々約二百名で盛会であつた。

十二月十七日

午後七時より、講堂に於て、天舳接三師に御講話を御願した。

「禅門の消費節約に就て」と題して当面の問題を適切平易に説かれた。

十二月十九日 木曜 雨

午後五時半より、工業倶楽部に於て、精神文化事業関係者四十名の忘年会を催した。
会食後各々自己紹介、感想談等をなし、九時半解散した。

十二月 日

亜米利加の大学を終へた婦人の会合に於て、「故郷に帰る」と題して講演をなす。

皇紀二千五百九十年〔昭和五年〕

一月廿壹日

午後七時より、講堂に於て、今成老師の学道用心集提唱。⁽¹⁸⁾聴衆は四十五、六名あつた。

一月廿二日

沼津に至り、東方寺に於て、沼津修養会に講演をなす。

一月廿五日

高崎にて、高崎市修養会に講演。

演題「自己の本質と其使命」

二月九日

午後一時より、上野自治会館に於て、皇国擁護会に講演。

演題「思想国難と国民の信仰」

二月十一日 建国祭の日

帝大山上御殿に於て、瑞穂会総会に於て講演。

二月一日

午後七時より、於講堂、原田老師、無門関提唱。⁽¹⁹⁾六十名出席。

二月二日

午後七時より、於講堂、西式強健術の創唱者西氏の講演会を開いた。寒気強く雪で道も悪かったが、聴衆は七十名を超え、盛会だった。

七時から十一時迄四時間に互る長講演であった。

二月廿二日

午後六時より、大倉洋紙店会議室に於て、都下中学校職員有志の教育談話会を催した。来席者十名。有意義な会合であった。委細別記。⁽²⁰⁾

三月二日

午後七時より、於講堂、原田老師、無門関提唱。出席者 人。

三月廿一日

午後七時より、於講堂、今成老師の学道用心集提唱。

出席者四十名。

四月二日

午後七時半、於講堂、原田老師提唱。無門関第三則。
聴衆五十余名。

四月二十四日

午後七時半、於講堂、今成老師提唱。学道用心集。聴衆三十五名。

五月二日

午後七時半、於講堂、原田老師提唱。無門関第四則。

聴衆五十名

五月三日 土曜

午後五時より、丸の内工業倶楽部に於て、第二回中等教育談論会を催した。
委細は別項⁽²¹⁾。

五月廿一日

午後七時半より、於講堂、今成老師、学道用心集提唱。

六月二日

夜、於講堂、原田老師、無門関提唱（第五則）。
参聴者六十名、盛会なりき。

六月七日

午後五時より、於工業倶楽部、第三回中等教育談論会を開く。委細別記。⁽²²⁾

六月八日

夜、丸山氏の依頼により向山寮⁽²³⁾に至り、寮生一同に講演をなす。

六月十三日

午後、国立の商大寄宿寮に於て、寮生一同に講演をなす。

六月十五日

夜、向山寮に於て、寮生一同に第二回講演をなす。

六月十四日

夜、目黒大倉邸に於て、富士見会を催す。

六月十七日

午後七時より、講堂に於て、文学博士法学士大川周明氏の第一回『大学』講義²⁴を開く。今日は儒教の概念について御講義を願った。聴衆四十名。

六月十九日

於講堂、午後七時、第二回『大学』講義会。

講師 大川周明博士。

六月二十一日

今成老師、学道用心集提唱。

六月二十四日

於講堂、午後七時、大川博士第三回『大学』講義。

六月二十六日

於講堂、午後七時、大川博士第四回『大学』講義。

聴衆三十人。

七月二日

於目黒講堂、原田老師御提唱、無門関。

八月は休講とす。

九月十八日

夜七時半ヨリ、於目黒講堂、今成老師、学道用心集提唱。

十月二日

於目黒講堂、原田老師、無門関提唱。

十月十八日

於目黒講堂、今成老師、学道用心集提唱。

十一月十五日

府立第三商業学校ニ於テ、生徒一同ニ講演。

十一月十五日

(午後四時半ヨリ) 府立三商主催―関東商業学校職員大会ノ出席者一同ヲ、工業倶楽部ニ招待ス。

十一月二日

於目黒講堂、原田老師、無門関提唱。

十一月廿一日

於目黒講堂、今成老師、学道用心集終講。

今成老師ハ本夜ノ提唱ヲ以テ学道用心集ヲ終へ、今後ハ老師御自身ノ御修行ニ専念セラル、コト、ナル。
大倉ハ一同二代ツテ謝辞ト希望ヲ述べ、終ッテ老師ヲ中心トシテサ、ヤカナ送別ノ茶話会ヲ催シタ。

十一月卅日―十二月五日

静岡県浜松方広寺ニ於テ、撰心会ヲ主催ス。

十二月二日

於目黒講堂、原田老師、無門関提唱。

十二月十六日

夜、石神井商大予科生徒ニ講演ヲナス。

十二月十八日

午後一時半より、研究所副本作製部、浄牧院、幼稚園、関係者一同の忘年会を太尾に於て催す。

所長の案内にて建物を参観し、夕食を共にして後、所長の挨拶あり。各部の報告をなして、七時散会した。

皇紀二千五百九十一年度〔昭和六年〕

一月廿日

午後一時ヨリ、京華商業学校生徒一同ニ講演ヲナス。

一月廿七日

午後七時ヨリ、講堂ニ於テ、海軍大佐増見修治氏ノ講演会ヲ催ス。（中等教育談論会）

一月廿八日

ベッツオールド氏夫妻ヲ招待ス。

二月二日

午後七時ヨリ、目黒講堂ニ於テ、原田老師ノ無門関提唱。聴衆五十名。

二月十一日 紀元節

『感想』其七ヲ發行ス。

二月二十四日

午後一時半ヨリ、東京療養所ニ於テ、講演ヲナス。

三月二日

午後七時より、目黒講堂に於て、原田老師の無門関提唱会。

三月六日

午前九時ヨリ、府立六中卒業式ニ於テ、生徒一同ニ講演ヲナス。

三月七日

午前、日本青年協会ノ講習会員ニ講演ヲナス。

午後、千葉県中山ノ小学校ニ於テ講演。「自然と人生」

三月廿三日

浄牧女子工芸学院、卒業式。

三月廿五日

午後二時ヨリ、研究所事務所ニ於テ、浜田本悠氏ノ「宗教改革ニツイテ」ノ講演ヲ聞ク。アツテ討論ヲナス。^{〔要〕}
出席者、浜田氏、坪上氏、川瀬氏、武藤氏、坂戸氏、上木氏、藤井氏、増見氏、木村氏、大倉、研究所員

四、五、兩月の宗教講話は原田老師の御都合に依り休講となれり。

三月廿五日

夜九時二十五分東京駅発列車ニテ、佐賀農村工芸学院ノ卒業式ニ臨ム。

四月五日

佐賀農村工芸学院ヨリ帰京。

四月九日

午前、大倉精神文化研究所ノ上棟式ヲ挙行ス。

四月十二日

太尾ノ研究所ニ友人、知己（研究所関係者及ビコレニ関心ヲ持ツ人々）ヲ招待シ、おでん会ヲ催ス。（出席者三百五十名）

四月十四日

夜、目黒ノ宅ニ於テ、富士見会ヲ開催ス。

近状報告及ビ一昨日ノ招待会ノ批評ヲナシテ、十時散会ス。

四月十五日

タゴール翁秘書より、タ翁七十回誕生記念出版物寄稿者推薦の依頼を受く。(委細別記)⁽²⁵⁾

四月十八日

午後一時東京駅発列車ニテ、佐賀ノ学院入学式ニ臨ム。

四月廿八日

佐賀学院ヨリ帰京。

五月十八日

千葉県市川ノ桐ヶ谷洗鱗氏蒐集の印度古代仏教美術品ヲ参観ニ行ク。

同道者、宮本正尊氏、武藤叟氏、高月氏、目黒氏、研究所員一同

六月二日

午後七時ヨリ、原田老師の無門関提唱会。非常な盛会であつた。八十五、六人出席。

六月九日

午後五時より、目黒宅に於て、友松円諦氏の歓迎座談会を催す。芝生でおでん会を開き、後講座で友松氏より「独仏に於ける仏教研究の趨勢」を聴き、自己紹介をなして座談会に入る。十時散会。委細別記。

出席者、友松、武藤、坂戸、宮本、大倉、原田、藤井（信）、桜井、坪上、日高、プリンクレイ、上木、盤井、宮本、岡崎、山田、高月、目黒、牟田

六月十三日

坪上氏外六名（服部博士、嘉納^{（狩野）}博士等）を史料の副本作製部及び研究所に案内す。^{（26）}

六月十八日

午後一時東京駅発。佐賀の国民女子工芸学院へ旅行。

六月廿七日

午後七時半ヨリ、於講堂、天岫接三師御講話。廿名出席。

葉根譚の一節

人解読有字書 不解読無字書

知弾有絃^(マ)之琴 不知彈無絃琴

以跡^(迹)用 不以神用 何以得琴^(之)書趣^(録)

六月廿七日

午后八時半東京着。佐賀学院ヨリ帰京。

七月二日

原田老師、無門関提唱会、第十三則。出席者約七十名。

七月四日

於目黒講堂、午后六時半より、海軍々医大佐田代豊吉郎氏の講演会を開催す。来聴者三十名。

八月七日

午後一時東京発。佐賀学院へ旅行。

和田三造氏来院（九日）。卒業生、在校生の総会を催す。

八月 日

京都奈良の古跡訪問、後帰京。

九月二十二、三日

午後七時より、於講堂、柳沢省三氏「純粹体験ノ哲学」の講演会を催す。

十月二日

沼津修養会ニ講演ス。

横浜紙業組合

中央仏教会館、仏教婦人会

長野県飯山中学校

米沢高女、婦人会

米沢高工

米沢市織物同業組合

埼玉県庁工場課主催同県鉄工業者

日本青年協会

等ニ講演ヲナス。²⁷⁾

十一月二日

沼津修養会ニ講演。

淑徳女学院、ルンビニ幼稚園ニ講演。

沼津修養会ニハ毎月二日、一回宛定期講演ヲナスコト、ナル。

十二月二十日（日曜）

富士見会忘年会。研究所、史料編纂所、幼稚園、日曜学校関係の人々の忘年会を、午前十時より、研究所に於て催した。今日は洋紙店、小田原製紙、大文洋行幹部員も出席された。

建物内部や裏山を一巡して後、富嶽荘に於てスキ焼の昼食を共にし、食後会議室に於て各部の報告をなした。最後に大倉所長の話があつて、宇宙心のマークのは入ったお菓子をお土産に三時半頃散会。

〔第二部〕

皇紀二五九三年度（昭和八年） 宗教講話会 於目黒講堂

二月二日

午後七時より、原田老師、無門関、第二十四則提唱。

聴聞者 七十名。

三月二日

午後七時より、目黒講堂に於て、原田老師、無門関、第二十五則提唱。
聴聞者 五十名。

四月二日

休講。

五月二日

午後七時より、原田老師、無門関、第二十六則提唱。
聴聞者 六十名。

六月二日

午後七時より、原田老師、無門関、第二十七則提唱。
聴聞者 七十名。

七月二日

午後七時より、原田老師、無門関、第二十八則提唱。
聴聞者 五十名

十月二日 曇天

午後七時より、原田老師、無門関、第二十九則提唱。

聴聞者 七十名。

十一月二日 晴天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十則提唱。

聴聞者 七十名。

十二月二日 晴天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十一則提唱。

聴聞者 五十五名。

二月二日 晴天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十二則提唱。

聴聞者 五十名。

三月二日 晴天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十三則提唱。

聴聞者 六十名。

四月二日

休会

五月二日 雨天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十四則提唱。

聴聞者 八十名余。堂に満つ。

六月二日 曇天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十五則提唱。

聴聞者 七十名余。

七月二日 晴天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十六則提唱。

聴聞者 七十名。

十月二日 晴天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十七則提唱。
聴聞者 六十名。

十一月二日 晴天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十八則提唱。
聴聞者 五十余名。

十二月二日 晴天

午後七時より、原田老師、無門関、第三十九則提唱。
聴聞者 七十名。

二月二日 晴天

午後七時より、今成覚禪師講話。原田老師、休講。

〔第三部〕

中等教育談話会

〔昭和五年〕

昭和五年二月廿二日

大倉洋紙店会議室ニ於テ、第一回中等教育談話会ヲ開催ス。

大倉先ヅ本会開催の趣旨ト意見ヲ述べ、出席者順次自己紹介ヲナシ、修身教育ノ方法論ニツキ意見ヲ開陳セリ。委細ハ別記。

出席者 大倉、原田、阿部、坂部、藤井、服部、田辺、澤登、山本、仙波、堀江、青木

昭和五年五月三日（土） 午後五時

工業倶楽部ニ於テ、第二回中等教育談話会開催。

大倉提案ノ中等教育に於ケル「行ノ教育」ニツキ討論。

「学校ニ於ケル行ノ教育」ヲ討論シ了ヘテ閉会。

委細別記。

出席者 吉澤、常田、藤井、阿部、田中、上木、岡、堀江、氏家、井口、大倉、原田

昭和五年六月七日（土） 午後五時

工業俱樂部ニ於テ、第三回中等教育談論会ヲ開催ス。先月ニ引続キ「家庭及び社会ニ於ケル行ノ教育」ニツキ、大倉提出ノ案ヲ遂項論議セリ。

委細別記。

出席者 吉澤、川瀬、藤井、服部、仙波、田辺、上木、岡、阿部、田中、堀江、坂部、澤登、平田

昭和五年七月六日

工業俱樂部ニ於テ、阿部校長渡米送別会ヲ開催ス。会員各自ノ挨拶、希望、意見等ヲ述ベテ阿部氏ノ餞トシ、コレニ答ヘテ阿部氏ノ挨拶アリ。（委細別記）

最後ニ会員一同連名サインヲナシ、記念トシテ送ツタ。

出席者 阿部、藤井、常田、吉澤、岡、田辺、内藤、堀江、上木、落合、仙波、山本、平田、川瀬、服部、坂部、澤登、大倉、原田

昭和五年九月十日

目黒ノ宅ノ芝生デ阿部校長ノ帰朝歓迎会を開催ス。

阿部氏ノ視察談ヲ中心ニ懇談セリ。

出席者 阿部、吉澤、平田、田辺、井口、服部、常田、仙波、山本、内藤、岡、上木、堀江、坂部、田中、大倉、

原田

昭和五年十月六日

大倉洋紙店会議室ニ於テ、第六回中等教育談論会開催。藤澤、村上両氏新入会。従来論議シ来レル「行ノ教育」ヲ纏メル為、起稿委員ヲ左ノ如ク依頼ス。

起稿委員

上木即審

藤井顯孝

服部武夫

山本麟太郎

原田三千夫

次ニ教師論ニ入りテ討論ヲ重ネタ。委細別記。

軍隊教育ニツイテ専門家ノ話ヲ聞ク事ヲ決議ス。

出席者 藤澤、吉澤、藤井、常田、上木、川瀬、岡、堀江、仙波、山本、坂部、阿部、青木、大倉、原田

（真崎中将講演会）

昭和五年十月十三日

中等教育談論会起稿委員会ヲ、洋紙店会議室ニ於テ開催シ、全国中等学校ニ対シ「行ノ教育」ニツイテノ意見ヲ求ムル事ヲ議決ス。

出席者 上木、服部、藤井、山本、原田

十月十九日 午後

中等教育談論会々員ヲ太尾研究所ニ招待シ、原田ノ案内ニテ建物ヲ參觀シ、裏山ニテ茶菓ヲ喫シツ、快談セリ。大倉ハ旅行中ニテ欠席ス。記念撮影ヲナシタリ。

出席者

十月廿五日

大倉洋紙店会議室ニテ、第二回起稿委員会ヲ開催セリ。

昭和五年十一月十八日

目黒ノ宅ニ於テ、第七回中教談論会開催。

明年度ヨリ中等教育ニ実施ストイフ公民教育ニツキ討論ヲ重ネタ。幸ニ阿部、吉澤、両校長ガ文部省ノ委員ナルヲ以テ、両氏ヲ通ジテ本会ノ意志ヲ発表ス。緊急問題トシ、ソノ可否ヲ会員一同熱心ニ討論ヲ遂ゲタ。委細別記。

実施ノ時期尚早ナリ。未ダ内容研究ノ余地アリ。文部省原案ヲ改正スル案アリトナシ、コレガ実施ノ延期又ハ取消ヲ両委員ヲ通ジテ提言スル事トス。

出席者 阿部、吉澤、田中、川瀬、上木、仙波、藤井、田辺、服部、氏家、澤登、内藤、坂部、堀江、平田、大倉、
原田

十一月廿五日（火）

第九回中等教育談論会ヲ、目黒ノ宅ニテ開催ス。公民教育ニ関シ、文部省ニテハ既ニコレカ実施ヲ延期シ又ハ取消ス

ル事ハ不可能ナリ。故ニ、公民教育文部省原案ノ内容及課目編成ノ変更ニツキ真剣ナ討論ヲ重ネタ。(委細別記)

出席者 阿部、吉澤、坂部、藤井、田辺、上木、川瀬、平田、服部、田中、村上、氏家、大倉、原田

十二月二十四日

午後五時ヨリ、目黒ノ宅ニ於テ、第十回中等教育談論会ヲ開催ス。吉澤、阿部両校長ヨリ公民教育委員会ノ結末ヲ聴キ、来年度ノ予定ヲ立ツ。

一、行ノ教育ノ原稿ヲ纏メル事

一、公民教育ニ課スル教科目、内容ヲ逐次吟味スルコト

後ハ雑談ニ時ヲ移シテ、十時散会セリ。

出席者 阿部、吉澤、平田、常田、上木、仙波、岡、服部、内藤、大倉、原田

皇紀二千五百九十一年度〔昭和六年〕

一月廿七日

午後五時ヨリ、目黒自宅ニ於テ、第十一回中等教育談論会開催。海軍大佐増見修治氏ノ海軍教育ニツイテノ講演アリ。十時半頃散会。委細別記。

出席者 阿部、坂部、堀江、藤井、澤登、上木、山本、田辺、川瀬、内藤、大倉、原田

二月は都合に依り休会ス。

三月 本月も多忙の為休会す。

四月 研究所の上棟式前後の取込や、佐賀学院の入学式に所長旅行中なれば休会す。

五月廿三日（土曜） 午後五時 於目黒宅

今回は出席者少く、青木氏の青年協会の説明や阿部校長の山陽先生百年祭の説明等あり。十時すぎ散会した。

出席者 阿部、坂部、上木、青木、長坂、堀江、仙波、大倉、原田

六月十五日（月） 午後五時 於日本橋洋紙店

第十三回中等教育談論会

帝国教育会編纂ノ公民科教授要目ニツキテ逐次審議シ、四年ノ部ヲ終ル。委細別記。

出席者 阿部、吉澤、常田、仙波、山本、上木、内藤、竹田、護、坂部、澤登、堀江、大倉、原田

六月十七日 午后五時 於洋紙店会議室

第十四回中等教育談話会

一昨夜に引続キ、今夜ハ五年ノ部ノ要目細目ヲ逐次審議シ、九時散会セリ。

本会ニ於テ公民科教科書編纂ノ議出デ一同讀成ス。委細別記。

本日ノ出席者 阿部、吉沢、常田、坂部、上木、長坂、山本、澤登、竹田、護、大倉、原田

六月二十二日

各会員に公民科教科書編纂ニツイテ、執筆希望課目申出デラレ度キ旨発信ス。

六月廿五日（木） 夜

新宿中村屋ニ於テ午后六時ヨリ小委員会ヲ開ク。

山本麟太郎

服部武夫

出席者

上木即審

原田三千夫

打合事項

原田行ノ教育ニツキ、全国各中学、実業、師範、女学校ヨリ得タル報告書ニツキ説明シ、後次ノ如ク分担整理シテ次
会ノ中等教育談話会ニ提出スル事トセリ。

第一項―三項

原田

々四項―六項

山本

々七項―九項

上木

十項―十三項 服部

七月十一日

本会々員田中次郎氏逝去ニツキ、本会ヨリ金貳拾圓香奠ヲ捧グ。

七月十四日 午后六時 於洋紙店会ギ室

公民教科書編纂下相談会

出席者 阿部、吉沢、常田、大倉、原田

公民教科書編纂ノ件ニツキ相談ス。

- (1) 一時間弱三頁位デ、七十時間トシ、一年200頁の割で執筆。
- (2) 原稿用紙は十三行二十八字詰のものを作ること。
- (3) 執筆担当を左の如く決定す。

年										四									
人和社会	我家	一家の生計	職業	教育	神社	宗教	公安	地方自治	府県	農村	産業	貨幣及金融	交通	総括					
九中	三商	六中	三商	三商	三商	一商	三商	三商	三商	三商	三商	三商	三商	三商					

年										五									
国家	皇室と国民	府県政治	帝国議會	國務大臣	国法	裁判所構成法	国防	国交	我國の産業	人口と国土	社会問題	世界と日本	総括						
九中	六中	三商	三商	三商	三商	三商	六中	六中	一商	九中	三商	九中	九中						

(4) 本会名称は、中等教育談話会と決定す。(大倉精神文化研究所内)

(5) 公民教育実話集編纂ノ提案アリ。

七月十八日 於大倉洋紙店會議室（六時）
第十五回中等教育談話会

(1) 公民教科書原稿は可及的の休暇中ニ書上ゲル事。文章は口語体。活字は、本文は12ポ、註釈は9ポ以下を許さず。

(2) 行の教育のパンフレットを出す事。

九月廿八日 午後五時ヨリ洋紙店会ギ室ニ於テ

第十六回中等教育談話会ヲ催ス。

休暇中ノ感想等ヲ順次述ベテ十時散会ス。

出席者 吉沢、常田、平田、上木、仙波、堀江、山本、内藤、川瀬、長坂、長谷川、大倉、原田

十二月十八日 午後五時 於大倉洋紙店 (第十七回)

公民教科書編纂の参考に資する為、今泉定介氏(助)に依頼し「神道より見たる国体観」についての御講話を聴いた。

出席者 阿部、坂部、護、山本、上木、長坂、内藤、大倉、原田、服部

傍聴者 高月、目黒、山田、宮本、藤井、江下、岡崎、牟田

会員名簿

堀江賢二 六中

六中 四谷区内藤町
自宅 府下世田ヶ谷下北沢六八

常田宗七 九中校長

府下板橋町九中内

川瀬専之助 東京市外品川北品川四〇〇

吉沢徹 三商校長 目黒町上目黒十四三

竹田豊助 六中 東京府下立川仲町三、一二一

長坂勝一 九中 九中内

内藤堯 七中 東京市牛込区南稷町二四

服部武夫 三商 〃 市外目黒町上目黒十二〇

田辺晋八 五中 〃 巢鴨町巢鴨二五

上木即審 府立高校 東京市赤坂区青山北町十ノ木

氏家賢次郎 日本青年協会 東京市外巢鴨町一、〇八八

岡泰彦 五中 〃 落合町下落合一、七二八

山本麟太郎 一商 〃 世田ヶ谷代田一三二

金井校長 一商

藤井顕孝 北多摩郡久留米村浄牧院

護賢寿 六中 府下杉並町天沼四九

阿部宗孝 六中校長 市外大久保百人町三六三

青木常盤 日本青年協会 麻布区三聯隊内日本青年協会

澤登哲一 九中 赤坂区青山高木町一二ノ一二

坂部勝太郎 六中 府下杉並町田端七四八

平田巧 九中 世田ヶ谷下北沢九〇一

田村二十一 品川高女 北品川宿一九五 品川高女内

仙波直心 三商 深川区古石場町二十二

大倉邦彦

原田三千夫

日野氏

館山 一、（九中）

皇紀二五九二年度〔昭和七年〕

中等教育談話会

五月卅一日 午後四時ヨリ 於研究所（第十八回）

阿部校長渡欧送別会ヲ兼ね、落成セル研究所參觀ノ意味で集合。

芝生ニテ富士山ヲ遠望シツ、オデン会。食後、所長ノ案内デ本館内部巡覧。了ツテ会議室ニ於テ所長送別ノ辞、阿部校長ノ答辞、及ビ視察旅行ノ趣旨希望談。各会員ノ挨拶、希望。後、座談的ニ話題ハ時事問題タル満洲問題ノ事ニ及ビ十時頃散会。

出席者 阿部、田村、澤登、護、坂部、山本、内藤、竹田、浜野（浅野中学）、大倉、原田、フロイデンベルグ

皇紀二五九三年度〔昭和八年〕

第十八回 一月廿八日（土） 於目黒 午後五時

オデンの食事後、新年初会合を兼ね、阿部校長の帰朝談を聴き終ってから、常田校長より歴史教育に関する注意事項及び意見の発表あり。この問題に関して意見交換をなし、此次もこれを引続き討論することとし、十時散会。
来月は十八日とす。

新会員を増加する件は、自然に入会希望者を待つこと。

出席者 阿部、常田、平田、田辺、岡、山本、内藤、堀江、川瀬、日野、大倉、原田、原、奥野、及び研究所事務

所員全部

二月十八日

第十九回中等教育談話会、於目黒

歴史教育に就いて

出席者 阿部、竹田、平田、内藤、子安、田辺、長坂、青木、館山、上木、大倉、原、原田、坂戸、奥野、藤本

五月二十七日 第二十回談話会、於目黒

「現下非常時に於ける教育者の態度如何」

出席者 阿部、平田、館山、長坂、堀江、護、内藤、青木、山本、所員一同

六月卅日 第二十一回談話会、於目黒

「中等教育制度に就いて」

出席者 阿部、田辺、岡、堀江、館山、内藤、子安、沢登、平田、常田、所員一同

九月八日 第二十二回談話会、於大倉洋紙店

『行の教育』の原稿の一応整理したるものを読み上げ、各自の意見を細目に互りて開陳す。
序文及び結論の原稿訂正の必要ありとして、起草委員を左の如く選ぶ。

起草委員 川瀬専之助

館山一

原田三千夫

出席者 阿部、常田、平田、川瀬、内藤、長坂、館山、堀江、田辺、金井、山本、原田、原、奥野、坂戸、藤本、
藤井、高橋、風見、植木、牟田、岡田

皇紀二五九四年度〔昭和九年〕

六月十六日 午後五時半より 於大倉洋紙店

『行の教育』発行したるに就き寄贈先を相談す。

続いて、「中等教育制度の改革」に就き討論。

今泉先生、岡泰雄氏の中等教育制度の欠陥に就き講話あり。

出席者 長坂、館山、山本、内藤、平田、伊藤、護、堀江、川瀬、今泉、植木、岡、研究所員十一名

十一月十二日（月） 午後五時半より 於大倉洋紙店

『行の教育』発売状況報告、第二版印刷セザル事トス。

談話会の組織改革ニ就キ相談、会則草案ヲ練ル。

出席者 山本、伊藤、長坂、館山、原田、岡田

注

- (1) 大倉が大正一三年四月に開園し、翌一四年四月に文部省の認可を得た幼稚園。詳細は、林宏美「大倉邦彦と富士見幼稚園二〇年のあゆみ―戦前・戦中の私立幼稚園の資料から―」（『大倉山論集』第六二輯、大倉精神文化研究所、平成二八年）。
- (2) 大正一四年二月一日発行。同年三月一九日、帝国ホテルで『国民小訓』出版祝賀講演会が開催されている。
- (3) 大倉が大正八年に各種学生を対象として、学生の経済的補助を目的として創立した学生寮。次第に精神活動を行う寮規則を立て、昭和二年頃には目黒の自宅内に寮舎を設けた（『私の使命事業（皇紀二五八九年・昭和四年度版）』研究所沿革史資料280）。昭和五年六月に富嶽荘と改称し、昭和六年八月には研究所の附属寮として本館（現横浜市大倉山記念館）近くに移転した（『使命事業（皇紀二六〇一年・昭和一六年五月増補）』研究所沿革史資料290）。
- (4) 東京商科大学在学生を対象とした学生寮（『大倉邦彦伝』一〇二五頁）。
- (5) 大倉は酒井コンクリート工業店に郷里佐賀に設立した農村工芸学院の設計を依頼し、同店に勤めていた建築家の広瀬恭が担

当した。引き続き精神文化図書館の設計も依頼していたが、途中で物足りなくなり、長野宇平治に依頼するに至った。

(6) 『佐賀新聞』の報道記事によると、大倉が佐賀に滞在していた時期の動向は、左の通りである。

二月二日(土) 午後一時五〇分、神埼駅到着。

二三日(日) 午前一〇時より、西郷村小学校講堂で村長や校長ら一五〇余名に欧州視察談。午後二時より、西郷村青年団に対して講演。

一四日(月) 午後一時より、神埼郡下の住職らを相手に「欧流宗教教育と日本宗教に対する運動開始に就て」と題して講演。

一五日(火) 午前一〇時より、佐賀紡績株式会社の男工女工二八〇余名を相手に講演。午後二時より、清和高等女学校で教員・生徒六百数十名に対し「日本婦人の地位」と題して講演(三時半終了)。

一六日(水) 午前中は背振村で、午後は神埼町で講演。午後六時より、佐賀市内の楊柳亭での歓迎会に出席する予定であったが、病気のため中止。

一七日(木) 私立成美女学校(午前)、佐賀県立中学校(午後)の講演は無期延期。

二四日(木) 午後一時より、私立成美女学校で教員・生徒八百余名に講演。

二六日(土) 午前一一時四一分、神埼駅を発つ。下関にてフィンランド商業会議所・外務省嘱託の日本視察員らと会合。

二七日(日) 午後、下関発。

(7) 大正七年(一九一八)に設立された慶應義塾大学内の学生団体で、藤田靈斎が創始した藤田式修養息心調和法を実習していた(杉原四郎「経済思想家の研究雑誌」(関西大学経済論集)四五(四)、関西大学経済学会、平成七年)。

(8) 沼波瓊音が、大正一五年(一九二六)に第一高等学校内に創設した、日本精神の研究を目的とする団体。

青山衡天が理事長を務めていた豊橋有隣財団が運営していた男児感化部「進修学校」と、少女感化部「静修女学校」(司法省保護課編『少年保護団体要覧』日本少年保護協会、昭和八年)。

- (10) 明治二三年（一八九〇）一〇月に創設された慶應義塾大学内の学生団体。
- (11) 副島羊吉郎らが創設した東京高等師範学校（現筑波大学）内の学生団体。
- (12) 道元が嘉禄三年（一二二七）に著した、坐禅の本質・仕方を明らかにし、その実践を説いた書物。
- (13) 大倉が昭和三年（一九二八）一月一日に、朝鮮半島からの内地留学生のために創設した学生寮。
- (14) 富士見日曜学校。昭和四年二月一七日、富士見幼稚園内に開校した。毎週日曜日の午前中に大学生や大学専門学校の卒業生が教師となり、満六歳から一七歳までの男女に対して、宗教的情操教育を行った（前掲注1『私の使命事業（昭和四年）』）。
- (15) 「坐禅和讃」あるいは「白隠禪師坐禅和讃」。白隠慧鶴が漢文調の禅宗の典籍を民衆にも分かりやすいように、日本語表記で和讃の形式で記したものの。原田の著書に『正宗国師白隠禪師坐禅和讃講話』（正信同愛会、昭和一五年）がある。
- (16) 日本女子大学創立者の成瀬仁蔵が中心となり、明治四五年（一九一二）六月二〇日に発足した国際的学術文化交流団体で、宗教・道徳の研究と諸宗教の相互理解・協力の推進を目的に、研究会・出版・公開講演会などの事業を行った。大倉邦彦と婦一協会の関係については、星原大輔「新出資料からみる婦一協会の全体像―沿革史資料を中心に―」（『大倉山論集』第六輯、大倉精神文化研究所、令和二年）を参照されたい。

(17) 『心の使い 二号』（研究所沿革史資料339）に収録されている記事「一月中の大倉先生講演」（三〇〜三一頁）に記されている行程は、左の通りである。本資料の記載とは日付などが若干異なっている。

一〇月三〇日（水） 夜 東京発。

十一月 四日（月） 正午、愛媛県北宇和郡吉田町（現宇和島市吉田町）着、大倉洋紙店幹部の横田清櫻邸に宿泊。午後、物故店員墓参。

五日（火） 午前十時頃、吉田町長・清家吉次郎を訪問、午餐。午後、お祭り見学。夜、大倉洋紙店店員であつた故山本静雄氏の親族の邸宅で晚餐。

六日（水） 午前、宇和島高等女学校で同校生徒及び家政女学校生徒に対して講演。午後、吉田町民に対して講演。

三時半より店員父兄歓迎会に参加。

七日（木）

午前、宇和島中学校で同校生徒及び商業学校生徒に対して「自己の本質」と題して講演。午後二時、女学校で講演。午後五時、町内有志歓迎会で講演。

八日（金）

午前十時、村井幼稚園でお話。その後、小学校で講演。午後一時半、宇和島港より乗船、佐伯着。

九日（土）

佐伯中学校で生徒に対して講演。

一〇日（日）

佐賀農村工芸学院着。毎日三回、講演。この他、計三回講演。

(18)

道元の著書『永平学道用心集』。天福二年（一二三四）頃の成立で、参禅弁道する上での心がけるべき一〇ヶ条が説かれている。

(19)

南宋の無門慧開が著した仏教書。禅宗の古則公案より四十八則を選び、頌を付した公案集。原田祖岳著作集の一つに、出口鉄城編『無門関提唱録』（原書房、平成一七年）がある。

(20)

翻刻・第三部、三五六頁参照。

(21)

翻刻・第三部、三五六頁参照。

(22)

翻刻・第三部、三三七頁参照。

(23)

丸山千代が地方から上京してきた女子学生のために創設した寄宿寮のことか（渋沢青淵記念財団竜門社編『渋沢栄一伝記資料 第四五巻』渋沢栄一伝記資料刊行会、昭和三七年、一〇四～一〇六頁）。

(24)

この時の講義録は、林宏美「大川周明博士「大学」講義速記」（『大倉山論集』第五六輯、大倉精神文化研究所、平成二二年）を参照されたい。

(25)

「日誌」（研究所沿革史資料296）に、左の通り記載されている。

タゴール翁誕生記念出版寄贈者推薦。

四月十五日、タゴール翁秘書 Chakravarty 氏ヨリ別紙書状ヲ以テ、タ翁誕生七十回ヲ記念スル Birthday volume ニ寄贈スル日本ノ代表的哲学者・詩人及ビ小説家ノ推薦ヲ依頼シ来ル。

詩人トシテ野口米次郎氏、小説家トシテ武者小路実篤氏ヲ推シテ承諾ヲ得タリ。野口氏ヨリハ英文ノ詩稿ヲ得テ、五月十三日之ヲ發送シ、武者小路氏ノ原稿ハ慶応義塾教授西脇潤三郎氏ニ翻訳ヲ依頼セリ。

哲学者トシテハ初メ京大ノ波多野博士ヲ推薦セシモ、同氏ノ都合ニヨリ承諾ヲ得ズ、井上哲次郎博士ヲ煩ハス事トナル。井上博士ノ原稿ハ岡倉由三郎氏ニ英訳ヲ依頼シテ承諾ヲ得タリ。

両者ノ原稿ハメ切切迫シテ、五月廿一日發送セリ。

(26)

嘉納は誤りで、狩野が正しいと思われる。その他の来所者は、新村出、伊集院兼清、江戸千太郎、岩村成充、荻野伸三郎

(27)

「日誌」(研究所沿革史資料2195、「写真」研究所沿革史資料687547)。
「日誌」(研究所沿革史資料2195)によると、山形県米沢市内の「米沢高女、婦人会、米沢高工、米沢市織物同業組合」における講演会は一〇月八日から一二日までの米沢への旅行中に、また長野県の飯山中学校での講演会は一〇月一八日から二一日までの間に行われたと推定される。なお「日誌」には、十一月一日(日)に横浜紙業組合で講演会が実施されたと記されている。

【年表】

(凡例)

- 一、本年表は、研究所沿革史資料「精神運動書翰」(研究所沿革史資料 1472) の記述を基に作成した。
- 一、曜日は、底本に記述されていない場合は () で表記し、底本が誤りと考えられる場合は [] を付した。
- 一、他の資料との齟齬等がある箇所等は※を付して、年表の末尾に注を記した。

	月 / 日	曜日	事 項
大正14 (皇紀2585、1925、大倉邦彦43歳)			
	3 /		大倉邦彦、徳富蘇峰『国民小訓』の推薦状を配布する。
	4 /		目黒町中日黒に富士見幼稚園を開園する (園長、大倉邦彦)。
	5 / 10	(日)	中華民国留学生招待会を開催する (大倉学寮・一如洞主催、大倉邦彦後援)。
	6 /		佐賀県下各学校への勤王文庫寄付に関する支援依頼状の発起人に、大倉邦彦も名を連ねる。
	9 /		図書館圖書の選択を専門の学者に依頼する。
	秋		図書館・研究所設立趣意案を策定する。
	10 / 3	(土)	大倉邦彦、図書選択主任への晩餐会 (10 / 12) 案内状を作成・送付する。
	10 / 12	(月)	午後 5 時～、図書選択主任を招待した晩餐会を大倉邦彦宅で開催する。
	10 / 13	(火)	大倉邦彦、青山学院商科学生に数回の修養講話を行い、その礼状を受ける。
	11 / 25	(水)	図書選択の希望事項を伝える。
	11 / 29	(日)	第 3 回民国学生招待会 (12 / 6) 案内状を作成・送付する。
	秋		学生寄宿舍設立発起書 (郷土佐賀の学生のために) を策定する。
	秋		大倉学寮入寮規定案を策定する。
	12 / 6	(日)	午前 10 時～、第 3 回民国学生招待会を大倉邦彦宅で開催する。
	12 / 17	(木)	大倉邦彦、母校西郷小学校に寄付した講堂の落成式に出席する。
大正15 (皇紀2586、1926、大倉邦彦44歳)			
	1 / 14	(木)	佐賀県神埼郡西郷村の精神作興会へ援助金を送付する。
	1 / 16	(土)	図書選択助手への晩餐会 (1 / 21) 案内状を作成・送付する。
	1 / 21	(木)	午後 5 時～、図書選択助手を招待した晩餐会を大倉邦彦宅で開催する。
	*/ *	毎週月曜	家庭婦人の向上進歩のため、富士見学びの会を開催する (午後 1 時～ 4 時)。
	2 /		紀元節での国旗掲揚の呼び掛ける。

	月 / 日	曜日	事 項
	2 / 5	(金)	富士見幼稚園での建国祭参列（2 / 11）の案内状を作成・送付する。
	2 / 7	(日)	大倉邦彦、4 月頃渡欧の為図書選定の取り纏めを催促する。
	2 / 11	(木)	午前10時～、建国祭を富士見幼稚園で挙行する。
	2 / 19	(金)	大倉邦彦、渡欧送別会（2 / 27）招待状を作成・送付する。
	2 / 27	(土)	午後5時～、大倉邦彦、渡欧送別会を晩翠軒で開催する。
	2 /		視察要項概略の確認校正の依頼状を作成・送付する。
昭和2（皇紀2587、1927、大倉邦彦45歳）			
	1 / 16	(日)	午後2時～、富士見会、大倉邦彦帰朝歓迎会を開催する（午後9時頃散会）。
	2 / 11	(金)	大倉邦彦、『感想』（其ノ三）を発刊する。
	2 / 12	(土)	大倉邦彦、佐賀に帰郷し、十数カ所で講演する。
	2 / 27	(日)	大倉邦彦、帰京中、下関でフィンランド人のワイニオ氏を見送る。
	3 / 9	(水)	大倉邦彦、『感想』読者に贈写で「心の手紙」を送る。
	3 / 12	(土)	大倉邦彦、神田基督教青年館で信者に講演する。
	3 / 16	(水)	大倉邦彦、一如会（禅研究会）で講演する。
	3 / 18	(金)	大倉邦彦、大倉洋紙店社員に訓話代わりの手紙を送る。
	3 / 23	(水)	大倉邦彦、日比谷大神宮で斯道懇談会にて講演する。
	3 / 24	(木)	大倉邦彦、目黒実科高等女学校の卒業式にて講演する。
	3 / 25	(金)	大倉邦彦、富士見幼稚園卒業式で講演し、刷物を配付する。
	4 / 19	(火)	大倉邦彦、日本貿易協会にて講演する。
	4 / 29	(金)	芙蓉荘（慶応義塾内の養真青年会の学生寄宿舎）を開設する。
	4 /		朝風寮（一高の瑞穂会の寄宿寮）を開設する。
	5 / 10	(火)	大倉邦彦、十日会（東京市の印刷会社の会合）にて講演する。
	6 / 6	(月)	午後5時半～、芙蓉荘で開荘祝いの会合を開催する。
	6 / 12	(日)	午前11時～、第5回中華民国学生招待会を大倉邦彦宅で開催する。 ※ 1
	6 / 13	(月)	大倉邦彦、千速婦人会にて講演する。
	6 / 28	火	午後7時半～、第1回宗教講話会を大倉邦彦宅で開催、講師・今成覚禪。
	9 / 3	(土)	大倉邦彦、軽井沢の女子大学修養会を視察する。
	9 / 7	(水)	午後7時～、瑞穂会の例会を大倉邦彦宅で開催する。
	9 / 11	(日)	大倉邦彦、第2回宗教講話会（9 / 15）来聴推薦状を作成・送付する。
	9 / 15	木	午後7時～、第2回宗教講話会を富士見寮で開催、講師・友松円諦。
	9 / 26	(月)	午後7時～、第3回宗教講話会を富士見寮で開催、講師・今成覚禪。
	10 / 5	水	第4回宗教講話会を富士見寮で開催、講師・友松円諦。
	10 / 28	金	第5回宗教講話会を大倉学寮で開催、講師・今成覚禪。
	11 / 6	火 [日]	大倉邦彦、豊橋市の青山夫妻経営の不良少年少女感化院を参観する。

	11/7	月	大倉邦彦、名古屋桜楓会主催の成人教育講座にて講演する。
	11/		大倉邦彦邸の講堂が竣工する。
	11/29	火	午後6時半～、第6回宗教講話会を大倉邸の目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	11/30	水	午後1時～、第7回宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	12/17	(土)	大倉邦彦、第8回宗教講話会(12/19)の中止により、学生の講演会開催の案内状を作成・送付する。
	12/19	(月)	午後6時半～、学生の思想発表会を開催する(午後10時閉会)。
	12/26	(月)	大倉邦彦、高千穂中学校で講演する。
昭和3（皇紀2588、1928、大倉邦彦46歳）			
	1/3	(火)	大倉邦彦、佐賀に帰郷し村民の歓迎会を受ける。
	1/4	(水)	大倉邦彦、日新会・青年会・処女会の会合にて精神講話を行う。
	1/5	(木)	農村工芸学院、開院式を挙行する。
	1/7	(土)	大倉邦彦、仁比山小学校で講演する。
	1/8	(日)	大倉邦彦、西郷学生同窓会にて講演する。
	1/9	(月)	大倉邦彦、西郷村の北方、草ろう庵にて講演する。
	1/17	(火)	午後6時半～、第9回宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	1/18	(水)	大倉邦彦、昼にロータリークラブにて、夜に紙商同業組合にて講演する。
	1/28	(土)	午後6時半～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	2/6	(月)	午後6時半～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	2/28	(火)	午後6時半～、宗教講話会を開催、講師・天舩接三。
	3/3	(土)	大倉邦彦、日本宗教大会会計主任を務める。
	3/16	(金)	午後6時半～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	3/19	(月)	大倉邦彦、隅田川駅楼上で隅田川合同運送会社員と隅田川駅員に講演する。
	3/20	(火)	富士見幼稚園卒業式。大倉邦彦、母の会にて講話、十一日会にて講演する。
	3月下旬		原田三千夫、欧州より帰朝する。
	4/14	(土)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。 ※2
	4/18	(水)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	4/28	(土)	大倉邦彦、第2回学生意見交換会を開催する。
	6/20	(水)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	6/30	(土)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	9/17	(月)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。大倉邦彦、長野県白田修養会で講演する。
	10/16	(火)	大倉邦彦、第6回中華民国学生招待会(10/21)案内状を作成・送付する。
	10/21	日	午前11時半～、第6回中華民国学生招待会を大倉邦彦宅で開催する。
	10/30	(火)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	11/10	(土)	午後7時～、御大典奉祝会を開催する。
	11/20	(火)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。

	月 / 日	曜日	事 項
	11/30	(金)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	12/4	(火)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・天軸接三。
昭和4（皇紀2589、1929、大倉邦彦47歳）			
	1/19	(土)	大倉邦彦、友枝高彦講演会・晩餐会（1/26）の案内状を作成・送付する。
	1/22	(火)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	1/26	土	午後3時～、友枝高彦の講演会・晩餐会を目黒講堂で開催する。
	1/31	(木)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	2/17	日	午前9時半～、日曜学校を富士見幼稚園で開始する。
	2/21	(木)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	2/25	(月)	午後7時～、大倉邦彦、相互修養団の要請により目黒講堂で修養講話を行う。
	3/1	(金)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	3/20	(水)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	3/24・25	(日・月)	午前7時～、大倉邦彦、東邦電気株式会社名古屋支店・岐阜支店・四日市支店で精神講話を行う。
	3/29	(金)	大倉邦彦、農村工芸学院卒業式に出席するため帰郷する。
	4/1	(月)	農村工芸学院入学式。大倉邦彦、佐賀県融和事業協会聯合会で講話を行う。 午後7時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	4/20	(土)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	4/25	(木)	午後5時～、大倉邦彦、神宮奉斎会にて講演する。
	5/1	(水)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	5/16	(木)	午後7時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	5/17	(金)	午後4時～、大倉邦彦、婦一協会にて講演する。
	5/19	(日)	午後3時～、中華民国学生・比律賓大学籃球選手の招待会を大倉邸庭で開催する。タゴールも出席。
	6/1	(土)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	6/26	(水)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	8/15	(木)	大倉邦彦、名古屋の松坂屋支店で精神講話を行う。
	10/5	(土)	午後7時～、瑞穂会員の研究発表会を目黒講堂で開催する。
	10/12	(土)	大倉邦彦、竹中組従業員と関係者に講演する。
	10/16	(水)	午後1時～、大倉邦彦、目黒警察署にて講演する。
	10/21	(月)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	10/30	(水)	大倉邦彦、日暮里警察署にて講演する。 大倉邦彦、講演旅行（大阪、四国、佐賀）へ出発する。
	11/1	(金)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	11/7	(木)	大倉邦彦、午前8時～、愛媛県宇和島町小学校で講演する。 午前10時～、宇和島中学、午後2時～、女学校で講演する。
	11/8	(金)	大倉邦彦、愛媛県吉田町の幼稚園・小学校で話をする。
	11/9	(土)	大倉邦彦、大分県の佐伯中学校で講演する。

	11/10	(日)	大倉邦彦、農村工芸学院に滞在(～5日間)、毎日3回生徒に講演する。
	11/17	(日)	大倉邦彦、帰京する。
	11/18	(月)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	12/1	(日)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	12/2	(月)	夜、宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	12/11	(水)	午後7時～、明世寮創立記念会を目黒講堂で開催。大倉邦彦、講演する。
	12/16	(月)	午後6時半～、陸軍中將河西唯一の講演会を、大倉洋紙店3階大広間で開催する。
	12/17	(火)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・天舩接三。
	12/19	木	午後5時半～、精神文化事業関係者の忘年会を、工業倶楽部で開催する。
	12/		大倉邦彦、亜米利加の大学を終えた婦人の会合で講演する。
昭和5(皇紀2590、1930、大倉邦彦48歳)			
	1/21	(火)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	1/22	(水)	大倉邦彦、沼津の東方寺で、沼津修養会にて講演する。
	1/25	(土)	大倉邦彦、高崎で、高崎市修養会にて講演する。
	2/1	(土)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	2/2	(日)	午後7時～、西式強健術の提唱者西氏の講演会を、目黒講堂で開催する。
	2/9	(日)	午後1時～、大倉邦彦、上野の自治会館で、皇国擁護会にて講演する。
	2/11	(火)	大倉邦彦、帝大の山上御殿で、瑞穂会総会にて講演する。
	2/22	(土)	午後6時～、都下中学校職員有志の教育談話会を、大倉洋紙店会議室で開催する。(第1回中等教育談話会)
	3/2	(日)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	3/21	(金)	午後7時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	4/2	(水)	午後7時半～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	4/24	(木)	午後7時半～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	5/2	(金)	午後7時半～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	5/3	土	午後5時～、第2回中等教育談話会を、工業倶楽部で開催する。
	5/21	(水)	午後7時半～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	6/2	(月)	夜、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	6/7	土	午後5時～、第3回中等教育談話会を、工業倶楽部で開催する。
	6/8	(日)	夜、大倉邦彦、向山寮で寮生に講演する。
	6/13	(金)	午後、大倉邦彦、国立の商大寄宿寮で寮生に講演する。
	6/14	(土)	夜、富士見会を目黒大倉邸で開催する。

	月 / 日	曜日	事 項
	6 / 15	(日)	夜、大倉邦彦、向山寮で寮生に再び講演する。
	6 / 17	(火)	午後7時～、大川周明による『大学』講義(第1回)を目黒講堂で開催する。
	6 / 19	(木)	午後7時～、大川周明による『大学』講義(第2回)を目黒講堂で開催する。
	6 / 21	(土)	宗教講話会を開催、講師・今成覚禪。
	6 / 24	(火)	午後7時～、大川周明による『大学』講義(第3回)を目黒講堂で開催する。
	6 / 26	(木)	午後7時～、大川周明による『大学』講義(第4回)を目黒講堂で開催する。
	7 / 2	(水)	宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	7 / 6	(日)	阿部校長渡米送別会を工業倶楽部で開催する。(第4回中等教育談論会)
	9 / 10	(水)	阿部校長帰朝歓迎会を大倉邸庭で開催する。(第5回中等教育談論会)
	9 / 18	(木)	午後7時半～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	10 / 2	(木)	宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	10 / 6	(月)	第6回中等教育談論会を大倉洋紙店会議室で開催する。
	10 / 13	(月)	中等教育談論会起稿委員会を大倉洋紙店会議室で開催する。
	10 / 18	(土)	宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	10 / 19	(日)	中等教育談論会会員を太尾研究所に招待(大倉は旅行中)。
	10 / 25	(土)	第2回中等教育談論会起稿委員会を大倉洋紙店会議室で開催する。
	11 / 2	(日)	宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	(11 / 5)	(水)	※ 3
	11 / 15	(土)	大倉邦彦、府立第三商業学校で生徒に講演する。
	11 / 15	(土)	午後4時半～、関東商業学校職員大会の出席者を工業倶楽部に招待する。
	11 / 18	(火)	第7回中等教育談論会を大倉邸で開催する。
	11 / 21	(金)	夜、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・今成覚禪。
	11 / 25	火	第9回中等教育談論会を大倉邸で開催する。
	11 / 30	(日)	(～12 / 5、) 大倉邦彦、静岡県浜松市の方広寺で接心会を主催する。
	12 / 2	(火)	宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	12 / 16	(火)	夜、大倉邦彦、石神井商大予科生徒に講演する。
	12 / 18	(木)	午後1時半～、古文書古記録副本作製部・浄牧女子工芸学院・富士見幼稚園関係者一同の忘年会を太尾で開催する。
	12 / 24	(水)	第10回中等教育談論会を大倉邸で開催する。
昭和6 (皇紀2591、1931、大倉邦彦49歳)			
	1 / 20	(火)	午後1時～、大倉邦彦、京華商業学校生徒に講演する。

	1 / 27	(火)	午後 5 時～、第11回中等教育談論会を大倉邸で開催する。 午後 7 時～、海軍大佐増見修治の講演会を目黒講堂で開催する。(中等教育談論会)
	1 / 28	(水)	大倉邦彦、ベッツォールド夫妻を招待する。
	2 / 2	(月)	午後 7 時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	2 / 11	(水)	紀元節。大倉邦彦著『感想』其七を発行する。
	2 / 24	(火)	午後 1 時半～、大倉邦彦、東京療養所で講演する。
	3 / 2	(月)	午後 7 時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	3 / 6	(金)	午前 9 時～、大倉邦彦、東京府立第六中学校卒業式で講演する。
	3 / 7	(土)	大倉邦彦、午前、日本青年協会の講習会員に講演する。午後、千葉県中山の小学校で講演する。
	3 / 23	(月)	浄牧女子工芸学院卒業式。
	3 / 25	(水)	午後 2 時～、浜田本悠の講演を研究所事務所で開催する。 大倉邦彦、佐賀の農村工芸学院の卒業式に出席するため午後 9 時25分東京駅を発つ。
	4 / 5	(日)	佐賀より帰京する。
	4 / 9	(木)	午前、大倉精神文化研究所の上棟式を挙行する。
	4 / 12	(日)	研究所関係者等350名を太尾工事現場に招待し、おでん会を開催する。
	4 / 14	(火)	夜、富士見会を大倉邸で開催する。
	4 / 15	(水)	大倉邦彦、タゴール翁秘書より古希記念出版物寄稿者推薦の依頼を受ける。
	4 / 18	(土)	大倉邦彦、佐賀の国民女子工芸学院入学式に出席するため、午後 1 時東京駅発で出発する。
	4 / 28	(火)	大倉邦彦、佐賀より帰京する。
	5 / 18	(月)	大倉邦彦等、千葉県市川で桐谷洗鱗が蒐集したインド古代仏教美術品を参観する。
	5 / 23	土	中等教育談論会を大倉邸で開催する。(第12回)
	6 / 2	(火)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	6 / 9	(火)	午後 5 時～、友松円諦の歓迎座談会を大倉邸で開催する。
	6 / 13	(土)	大倉邦彦、坪上貞二ほか 6 名を古文書古記録副本作製部と研究所に案内する。
	6 / 15	月	午後 5 時～、第13回中等教育談論会を大倉洋紙店で開催する。
	6 / 17	(水)	午後 5 時～、第14回中等教育談論会を大倉洋紙店会議室で開催する。(会の名称変更か)
	6 / 18	(木)	大倉邦彦、佐賀の国民女子工芸学院へ、午後 1 時東京駅発で出発する。
	6 / 22	(月)	中等教育談話会、公民科教科書編纂につき、執筆希望課目を会員に募る。
	6 / 25	木	午後 6 時～、中等教育談話会の小委員会を新宿の中村屋で開催する。
	6 / 27	(土)	午後 7 時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・天舳接三。 大倉邦彦、午後 8 時半佐賀より東京駅に到着する。
	7 / 2	(木)	宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。

	月 / 日	曜日	事 項
	7 / 4	(土)	午後 6 時半～、海軍軍医大佐田代豊吉郎の講演会を目黒講堂で開催する。
	7 / 11	(金)	中等教育談話会会員の田中次郎死去につき、香奠を捧げる。
	7 / 14	(火)	午後 6 時～、中等教育談話会の公民科教科書編纂下相談会を大倉洋紙店会議室で開催する。
	7 / 18	(土)	午後 6 時～、第15回中等教育談話会を大倉洋紙店会議室で開催する。
	8 / 7	(金)	大倉邦彦、佐賀の国民女子工芸学院へ、午後 1 時東京駅発で出発する。
	8 / 9	(日)	和田三造が佐賀の国民女子工芸学院に来院する。卒業生・在校生の総会を開催する。
	8 /		大倉邦彦、京都・奈良の古跡を訪問し、帰京する。
	9 / 22・23	(火・水)	午後 7 時～、柳沢省三の講演会を目黒講堂で開催する。
	9 / 28	(月)	午後 5 時～、第16回中等教育談話会を大倉洋紙店会議室で開催する。
	10 / 2	(金)	大倉邦彦、沼津修養会で講演する。
	この間		大倉邦彦、中央仏教会館など 9 ヶ所で講演する。
	11 / 2	(月)	大倉邦彦、沼津修養会で講演する（以降毎月 2 日定期講演）。淑徳女学院、ルンビニ幼稚園で講演する。
	12 / 18	(金)	午後 5 時～、第17回中等教育談話会を大倉洋紙店で開催し、今泉定助の講演を聞く。
	12 / 20	日	午前10時～、富士見会忘年会を研究所で開催する。
昭和 7（皇紀2592、1932、大倉邦彦50歳）			
	5 / 31	(火)	午後 4 時～、第18回中等教育談話会を大倉精神文化研究所で開催する。 ※ 4
昭和 8（皇紀2593、1933、大倉邦彦51歳）			
	1 / 28	土	午後 5 時～、第18回中等教育談話会を大倉邸で開催する。 ※ 5
	2 / 2	(木)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	2 / 18	(土)	第19回中等教育談話会を大倉邸で開催する。
	3 / 2	(木)	午後 7 時～、宗教講話会を目黒講堂で開催、講師・原田祖岳。
	5 / 2	(火)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	5 / 27	(土)	第20回中等教育談話会を大倉邸で開催する。
	6 / 2	(金)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	6 / 30	(金)	第21回中等教育談話会を大倉邸で開催する。
	7 / 2	(日)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	9 / 8	(金)	第22回中等教育談話会を大倉洋紙店で開催する。
	10 / 2	(月)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	11 / 2	(木)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	12 / 2	(土)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
昭和 9（皇紀2594、1934、大倉邦彦52歳）			
	2 / 2	(金)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。 ※ 6
	3 / 2	(金)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。

	5 / 2	(水)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	6 / 2	(土)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	6 / 16	(土)	午後 5 時半～、中等教育談話会（第23回？）を大倉洋紙店で開催する。 ※ 7
	7 / 2	(月)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	10 / 2	(火)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	11 / 2	(金)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
	11 / 12	月	午後 5 時半～、中等教育談話会（第24回？）を大倉洋紙店で開催する。
	12 / 2	(日)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・原田祖岳。
昭和10（皇紀2595、1935、大倉邦彦53歳）			
	2 / 2	(土)	午後 7 時～、宗教講話会を開催、講師・今成覚禅。

注

- ※ 1 本文には「第 5 回」とあるが、案内状には「第 4 回」とある。
- ※ 2 前後の記載より、5 月14日（月）の間違いの可能性もあり。
- ※ 3 研究所沿革史資料5849「中等教育談話会・中等教育談話会（会議録、談話会名簿等）」には、この日に第 6 回中等教育談話会が開催された旨の記載あり。この回が第 7 回で、11/18 が第 8 回の可能性あり。
- ※ 4 他の資料では開催を確認できず。
- ※ 5 回数が重複。
- ※ 6 これ以降の宗教講話会の開催は他の資料では確認できず。
- ※ 7 これ以降の中等教育談話会の開催は他の資料では確認できず。

【索引】

索引

凡例

- ・本索引は『精神運動書翰』〈研究所沿革史資料1472〉に掲載されている人名、団体・施設名の索引である。
- ・人名索引の項目は、①「姓名」、②「掲載頁〈算用数字〉」、③「説明」から成り、配列は①の五〇音順とした。
- ・①「姓名」は、資料の本文中の表記から採り、表記が複数ある場合は（ ）で示した。フルネームの表記がない人物については、可能な限り【 】で補足した。
- ・①「姓名」の読みは、研究所沿革史資料や人事興信録などの各種人名辞典に拠った。
- ・③「説明」は、生没年・略歴・大倉邦彦または大倉精神文化研究所との関係を記した。
- ・団体・施設名索引の項目は、1.「団体・施設名」、2.「掲載頁〈算用数字〉」、3.「説明」から成り、配列は①の五〇音順とした。
- ・1.「団体・施設名」の項目は資料の本文中の表記から採、表記が複数のある場合は（ ）で示した。略記されている場合は、当時の正式名を可能な限り【 】で補足した。

【人名】

あ行

あおき

青木常盤（青木） 356, 358, 361,

366, 368

日本青年協会常務理事。中等教育
談話会会員。

みちたか
青山氏【青山衝天】 313

明治7年～昭和30年。愛知県の社
会事業家。有鄰財団豊橋育児院を
経営。

あかし たかいちろう

赤司鷹一郎 294

明治9年～昭和8年。文部官僚。

父親の欽一が佐賀藩士。

あべむねたか

阿部宗孝（阿部、阿部氏、阿部校
長） 356, 357, 358, 359, 360,

361, 362, 363, 365, 366, 367,

368, 369

明治8年～昭和19年。教育者、東
京府立第六中学校校長。中等教育
談話会会員。

あまくせつさん

天岫接三（天岫禪師） 317, 324,

336, 348

明治11年～昭和36年。静岡県沼津
市の東方寺住職（臨済宗）。宗教講
話会講師。

いぐち

井口【井口益吉】 356, 357

中等教育談話会会員。

いたみや たろう

伊丹弥太郎 295

慶応2年～昭和8年。佐賀県の実
業家。

伊藤 370

中等教育談話会会員カ。

いとうきちの すけ

伊藤吉之助 285

明治18年～昭和36年。哲学者。当時、
東京帝国大学講師。のちに北海道
大学教授、中央大学教授。購入図
書選択（哲学・主任）。

今泉先生（今泉、今泉貞介、今泉
定介）【今泉定助】いまいずみさだすけ 323, 365,
370

文久3年～昭和19年。神道思想家。
大倉精神文化研究所嘱託、神典編
纂部相談役、『神典解説 上巻』監

修など。
いまなりかくぜん
今成覚禪（今成禪師、今成老師）
310, 312, 313, 315, 317, 318,
319, 320, 324, 326, 331, 332,
333, 335, 337, 338, 339, 341,
342, 343, 355
明治17年～昭和38年。当時、福井
県福井市の通安寺住職。宗教講話
会講師。

盤井【磐井宗憲カ】 348

植木【植木直一郎カ】 369, 370

植木謙英 285

購入図書選択（宗教・助手）。

うじいえ
氏家賢次郎（氏家） 356, 359,
360, 366

日本青年協会会員。中等教育談話
会会員。

えしたせいいち
江下【江下清一】 365

佐賀県出身。佐賀中学校、東亜同
文書院卒。大倉精神文化研究所研
究員（昭和6年4月～昭和8年6
月）。

園長→「大倉邦彦」

おおかわしゅうめい
大川周明（大川博士） 341

明治19年～昭和32年。思想家。宗
教講話会講師。

おお き えんきち
大木遠吉 294

明治4年～大正15年。伯爵、政治家。
父の喬任は佐賀藩士。

おか やす お
岡泰雄 370

明治4年～明治16年。神官。鹿島
神宮宮司などを歴任。『神典』校訂、
『神典解説 上巻』指導。

おか やす ひこ
岡泰彦（岡） 356, 357, 358, 360,
366, 368, 369, 370

東京府立第五中学校教諭（国語漢
文）。中等教育談話会会員。

おおくまのぶつね
大隈信常 294

明治4年～昭和22年。侯爵、教育者。

養父の重信は佐賀藩士。

おおくらくにひこ
**大倉邦彦（園長、大倉、大倉氏、
大倉所長、大倉先生、所長）**

282, 283, 284, 286, 287, 292,
293, 294, 297, 298, 300, 305,
309, 310, 312, 315, 321, 323,
325, 327, 329, 330, 343, 344,
346, 348, 351, 356, 357, 358,
359, 360, 361, 362, 363, 365,
367, 368

おおつかどうこう
大塚道光 285

購入図書選択（宗教・助手）。

おおつかひで お
大塚英雄 319

慶應義塾大学学生、養真会会員。

おおむろていいちろう
大室貞一郎 285

のちに東京帝国大学学生課長。購
入図書選択（哲学・助手）。

岡崎【岡崎賢次】 348, 365

明治45年～？。大倉精神文化研究
所所員。戦後、五輪堂洋紙店取締役。

おかざきふじきち
岡崎藤吉 294

安政3年～昭和2年。実業家。佐
賀出身。

お がさわらながなり
小笠原長生 294

慶応3年～昭和33年。子爵、海軍
軍人。小笠原家は唐津藩藩主。

おか だ しゅんべい
岡田【岡田俊平】 369, 370

明治39年～昭和54年。大倉精神文
化研究所研究員。

おく の
奥野【奥野源太郎カ】 368, 369

おちあい
落合【落合矯一カ】 357

中等教育談話会会員。

おちあいさぶろう
落合三郎 327

おとたけいわずう

乙竹岩造（乙竹氏） 285, 286

明治8年～昭和28年。教育学者。

のちに東京文理科大学名誉教授。

購入図書選択（教育・主任）。

か行

か さいこれいち
河西陸軍中将【河西惟一】 336

明治8年～昭和13年。日露戦争の

旅順攻略戦で兵站担当参謀として

従軍。当時は予備役。

かざ み
風見 369

中等教育談話会会員カ。

かど た
門田つや 282

富士見幼稚園主事。

かない
金井校長（金井）【金井浩】 366,
369

東京府立第一商業学校校長。中等

教育談話会会員。

かの なおき
嘉納博士【狩野直喜】 348

慶応4年～昭和22年。中国文学者。

当時は京都帝国大学教授、東方文

化学院京都研究所所長。

かみ き
上木即審（上木、上木氏） 346,

348, 356, 357, 358, 359, 360,

361, 362, 365, 366, 368

東京府立第一商業学校教諭、府立

高等学校教諭。中等教育談話会会員。

かわ せ せん の すけ
川瀬専之助（川瀬、川瀬氏）

346, 357, 358, 359, 360, 365,

368, 369, 370

弁護士。大倉学友。中等教育談話

会会員。

かわ の
川野美子 314

かわもと
川本六郎 314

慶應義塾大学学生、養真会会員。

カント 288

きたむらしちろう

北村七郎 294

実業家、三井物産監査役。佐賀県

出身カ。

木村氏 346

き むらたけん

木村泰賢 285

明治14年～昭和5年。インド哲学

者・仏教学者。東京帝国大学教授。

購入図書選択（宗教、印度哲学・

主任）。

きり や せんりん
桐ヶ谷洗鱗【桐谷洗鱗】 347

明治10年～昭和7年。日本画家、

版画家。明治44年に古代インド美

術研究のためインドに渡り、タゴー

ルらと交遊した。

今上陛下【昭和天皇】 323

明治34年～昭和64年。第124代天皇。

こい げん ざう
古池信三 315

明治36年～昭和58年。東京帝国大

学学生、瑞穂会会員。のちに衆議

院議員・郵政大臣、国際電信電話

（現・KDDI）会長。

皇后【貞明皇后】 294

明治17年～昭和26年。大正天皇の

皇后。

こうじろ たかみち
神代峻通 285

明治25年～昭和34年。倫理学者。

のちに真言宗高野山大教授。購入

図書選択（倫理・助手）。

こ やす
子安【子安浩】 368, 369

協調会職員。大倉学友。中等教育

談話会会員カ。

さ行**酒井氏** ^{さかい ゆう の すけ}【酒井祐之助】 286

明治7年～昭和10年。建築家、酒井コンクリート工業店社長。

佐賀県知事 ^{さいとう こうぞう}【斎藤行三】 294**坂戸氏** ^{さか と ち かい}【坂戸智海カ】 346, 348

のちに大正大学名誉教授。

坂戸 368, 369^{さか べ}**坂部勝太郎** (坂部) 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 365, 366, 367

東京府立第六中学校教諭(数学)。中等教育談話会会員。

^{さくら い}**桜井** 348^{さとう たいし めん}**佐藤泰舜** 285

明治23年～昭和50年。仏教学者。のちに永平寺七四世貫首。曹洞宗管長。購入図書選択(印度哲学・助手)。

^{さ の つね は}**佐野常羽** 294

明治4年～昭和31年。伯爵、海軍軍人。父の常民は佐賀藩士。大倉精神文化研究所監事(昭和12年～昭和20年)。

^{さわ の ぼり}**澤登哲一** (澤登、沢登) 356, 357, 359, 360, 361, 362, 366, 367, 369

東京府立第九中学校教諭(修身、国語漢文)。中等教育談話会会員。

山陽先生 ^{しん ぶ かわ ぜん すけ}【頼山陽】 361**渋川善助** 319

明治38年～昭和11年。明治大学学生、瑞穂会会員。のちに二・二六事件に関わり処刑された。

所長→「大倉邦彦」

聖上 ^{せい じょう}【大正天皇】 294

明治12年～大正15年。第123代天皇。

^{せん ば}**仙波直心** (仙波) 356, 357, 358, 359, 360, 361, 365, 366

東京府立第三商業学校教諭。中等教育談話会会員。

^{そえし まみ ち まさ}**副島道正** 294

明治4年～昭和23年。伯爵、政治家。

父の種臣は佐賀藩士。

^{そえし まよう き ち ろ う}**副島羊吉郎** 320

明治40年～平成16年。神埼郡仁比山村大字城原(現神埼市城原)出身。東京高等師範学校へ進学した際、中学校校長からの紹介で、大倉が主宰する講座に参加するようになった。松月会会員。のちに佐賀大学名誉教授。

^{とくとみ そ ほう}**蘇峰氏** ^{とくとみ そ ほう}【徳富蘇峰】 283

文久3年～昭和32年。ジャーナリスト、歴史家。

た行^{たか き}**高木秀敏** 315

慶應義塾大学学生、仏教青年会会員。

高月氏 (高月) 347, 348, 365^{たか どり これ よ し}**高取伊好** 294

嘉永3年～昭和2年。佐賀の実業家。

^{たかは し ち ろ う}**高橋** ^{たかは し ち ろ う}【高橋八郎】 369

明治42年～?。大倉精神文化研究所研究員。

^{たかは し ゆ た か}**高橋稜** 285

明治18年～昭和43年。心理学者・倫理学者。のちに東北帝国大学教授、学習院大教授。購入図書選択(心理・主任)。

^{たけだ}
竹田豊助（竹田） 361, 362, 365,
367, 368

東京府立第六中学校教諭（歴史、
公民科）。中等教育談話会会員。

タゴール翁【ラビンドラナート・
タゴール】 332

1861年～1941年。インドの詩人、
アジア人最初のノーベル文学賞受
賞者。昭和4年（1929）に来日し
た際、大倉の自宅に約一ヶ月滞在
した。

タゴール翁秘書【アミヤ・チャク
ラバーティ】 347

1901年～1986年。インドの文芸批
評家、詩人。

^{たしろとよきちろう}
田代豊吉郎 349

?～昭和11年。海軍軍医大佐。

^{たてやま}
館山一 367, 368, 369, 370

東京府立第九中学校教諭（歴史、
修身）。中等教育談話会会員。

^{たなかじろう}
田中次郎（田中） 294, 356, 357,
359, 360, 363

明治6年～昭和6年。逓信省官僚、
日本石油専務など。佐賀県出身。
中等教育談話会会員。

^{たなべ}
田辺晋八（田辺） 356, 357, 359,
360, 366, 368, 369

東京府立第五中学校教諭（数学）。
中等教育談話会会員。

^{たむら}
田村二十一（田村） 366, 367

?～昭和29年。品川高等女学校教諭。
中等教育談話会会員。

^{つねた}
常田宗七（常田、常田校長）
356, 357, 358, 360, 361, 362,
363, 365, 368, 369

東京府立第九中学校校長（修身）。
中等教育談話会会員。

^{つばかみていじ}
坪上氏（坪上）【坪上貞二】 346,
348

明治17年～昭和54年。外交官。佐
賀県出身。佐賀中学校卒（大倉の
一年後輩）。戦後、大倉精神文化研
究所理事長、理事、顧問などを歴任。

^{とめおかきよお}
留岡清男 285

明治31年～昭和52年。教育学者。
当時、東京農業大学予科大学部教授、
のちに北海道大学教育学部教授。

購入図書選択（心理・助手）。

^{ともえだたかひこ}
友枝高彦（友枝教授） 285, 324,
325

明治9年～昭和32年。倫理学者。
当時、東京高等師範学校教授、の
ちに東京教育大学名誉教授、都留
短期大学初代学長。購入図書選択
（倫理・主任）。

^{ともまつえんたい}
友松円諦（友松、友松氏） 311,
312, 348

明治28年～昭和48年。宗教家、仏
教学者。のちに全日本仏教会初代
事務総長、神田寺主管。宗教懇話
会講師。

な行

^{ないどう}
内藤堯（内藤） 357, 359, 360,
361, 365, 366, 367, 368, 369,
370

東京府立第七中学校教諭（歴史、
地理）。中等教育談話会会員。

内藤会長 327

東邦電気株式会社早天修養会会長。

ながさか

長坂勝一（長坂） 361, 362, 365,
366, 368, 369, 370

東京府立第九中学校教諭（修身、
公民科）。中等教育談話会会員。

なかむらじゆん くろう

中村 純九郎 294

嘉永6年～昭和22年。内務官僚、
貴族院議員。佐賀県出身（士族）。

なべしまなおき

鍋島直明 294

明治2年～昭和12年。男爵、陸軍
軍人。白石鍋島家。

なべしまなおす

鍋島直和 294

明治17年～昭和18年。子爵。蓮池
鍋島家。

なべしまなおた

鍋島直縄 294

明治22年～昭和14年。子爵、政治家。

鹿島鍋島家。

なべしまなおとら

鍋島直虎 294

安政3年～大正14年。政治家。小
城鍋島家。

なべしまなおみつ

鍋島直映 294

明治5年～昭和18年。侯爵、政治家。

鍋島家。

なべしまひでまさ

鍋島英昌 294

元治元年～昭和2年。男爵。武雄
鍋島家。

にし く びろみち

西久保弘道 295

文久3年～昭和5年。内務官僚、
警視総監など。佐賀県出身（士族）。

にしかつぞう

西氏【西勝造】 338

明治17年～昭和34年。昭和2年、
宗教医学一体論を唱える西式健康
法を創始した。

にし ぎ ゆう

西義雄 285

明治30年～平成5年。仏教学者。
のちに東洋大学名誉教授。購入図

書選択（印度哲学・助手）。戦後、
大倉精神文化研究所所長。

の ぎ まれすけ

乃木大将【乃木希典】 336

嘉永2年～大正元年。陸軍軍人。

の の むらうんいち

野々村運市 285

明治13年～昭和26年。教育学者。
当時、東京高等師範学校講師、の
ちに島根県立大東高等学校校長。
購入図書選択（教育・助手）。

は行

はくいん え かく

白隠和尚【白隠慧鶴】 331

貞享2年～明和5年。禅僧。

は せ せ がわおとひこ

長谷川【長谷川乙彦】 365

明治3年～昭和14年。教育者。東
京府青山師範学校校長。中等教育
談話会会員カ。

服部さん 293

はつとり

服部武夫（服部） 356, 357, 358,

359, 360, 362, 363, 365, 366

東京府立第三商業学校教諭。中等
教育談話会会員。

はつとり う の きち

服部博士【服部宇之吉】 348

慶応3年～昭和14年。中国学者。

はま だ ほんゆう

浜田本悠（浜田氏） 346

立正大学教授、宗教問題研究所所長。

はま な

浜名儀一 314

東京高等師範学校学生、月松会会員。

はま の

浜野【浜野駿吉】 367

浅野綜合中学校教諭。中等教育談
話会会員カ。

原【原正男】 368, 369

明治15年～？。大倉精神文化研究
所研究員。

はら だ としあき

原田敏明 285

明治26年～昭和58年。民俗学者・宗教学者。のちに東海大学名誉教授。

購入図書選択（宗教・助手）。

^{はらだ みちお}
原田三千夫（原田、原田氏）

319, 320, 348, 356, 357, 358,
359, 360, 361, 362, 363, 365,
367, 368, 369, 370

明治33年～昭和52年。大倉学友。

大倉の秘書、大倉精神文化研究所理事。戦後、国立国会図書館参事・総務部長、大倉精神文化研究所常務理事などを歴任。

^{はらだ そごく}
原田老師【原田祖岳】 313, 317,

320, 323, 324, 325, 326, 331,
332, 333, 335, 338, 339, 340,
342, 343, 344, 345, 346, 348,
349, 351, 352, 353, 354, 355

明治4年～昭和36年。駒澤大学教授、福井県の発心寺住職など。大倉は原田の指導の下で参禅した。宗教講話会講師。

^{ひだか}
日高 348

^{ひの}
日野（日野氏）【日野照彦カ】

367, 368

中等教育談話会会員カ。

^{ひらた}
平田巧（平田） 357, 359, 360,

365, 366, 368, 369, 370

明治25年～昭和44年。教育者。東京府立第九中学校教諭（数学）。中等教育談話会会員。

^{ふくだ けいしろう}
福田慶四郎 294

慶応3年～昭和20年。佐賀の実業家。

佐賀商工会議所会頭など。

^{ふじい あきたか}
藤井顕孝（藤井、藤井氏） 346,

356, 357, 358, 359, 360, 366

東久留米市の浄牧院住職。昭和5年（1930）に設立した浄牧女子工芸学院を大倉と共に運営した。中等教育談話会会員。

^{ふじい}
藤井 齊 319

東京帝国大学学生、瑞穂会会員。

藤井（信）【藤井信男】 348, 365, 369

明治40年～？。大倉精神文化研究所研究員。

^{ふじさわ}
藤澤 358

中等教育談話会会員。

^{ふじさわ いのすけ}
藤沢伊之助 314

東京商科大学学生、大倉学寮寮生。

大倉学友。横浜正金銀行勤務。

^{ふじもと}
藤本【藤本智董】 368, 369

大倉精神文化研究所研究員。

^{ふじやまたけいち}
藤山竹一 294

明治18年～昭和5年。内務・警察官僚。佐賀県出身。

^{ふじやまらい た}
藤山雷太 294

文久3年～昭和13年。実業家。佐賀県出身。

^{ふせ こうがく}
布施浩岳 285

購入図書選択（印度哲学・助手）。

プラトーン 288

ブリンクレー 348

フロイデンベルク 367

ベッツオールド氏夫妻 344

^{ほ ながしげすけ}
楠永茂助 285

明治14年～昭和7年。神道学者。

当時、東京女高師教授。購入図書選択（神道・主任）。

^{ほり え}
堀江賢二（堀江） 356, 357, 358, 359, 360, 361, 365, 368, 369,

370

東京府立第六中学校教諭（地理）。
中等教育談話会会員。

ま行

真崎中将【真崎甚三郎】 358

明治9年～昭和31年。陸軍軍人。
佐賀県神埼郡境野村（現神埼市千代田町）出身。佐賀中学校卒。当時は第一師団長。

増見修治 344, 360

海軍大佐。

増見氏 346

町田徳之助 303

慶応2年～昭和27年。町田絲店二代目社長。昭和9年町田報徳会を起こし、品川に町田報徳学舎（男子三年制の商業学校、現学校品川エトワール女子高校）を創立。大倉は同会の評議員となっている。

松本重雄 314

明治41年～平成4年。第一高等学校生、瑞穂会会員。のちに日本銀行理事。

丸山氏【丸山千代】 340

明治20年～昭和42年。聾啞教育者、社会事業家。

水町袈裟六 294

元治元年～昭和9年。大蔵官僚、枢密顧問官など。佐賀県出身（士族）。

宮本【宮本誠三】 348, 365

明治42年～？。大倉精神文化研究所研究員。

宮本正尊 347, 348

明治26年～昭和58年。仏教学者。のちに東京大学名誉教授、日本印

度学仏教学会理事長。
牟田直（牟田） 319, 348, 365, 369

明治42年～平成3年。大倉と同じ神埼郡西郷村姉川出身。17歳で大倉に連れられて上京し、大倉の会社経営と精神文化事業を支えた。大倉学友。戦後、大倉精神文化研究所理事長、大倉博進（大倉洋紙店の後継）社長、会長を歴任。

武藤叟（武藤、武藤氏） 346, 347, 348

明治31年～昭和49年。

武藤信義 294

慶応4年～昭和8年。陸軍軍人。佐賀県出身（士族）。

村岡長太郎 294

明治4年～昭和5年。陸軍軍人。佐賀県出身。

村上 358, 360

中等教育談話会会員。

村上格一 294

文久2年～昭和2年。海軍軍人。佐賀県出身（士族）。

目黒氏（目黒） 347, 348, 365

本野盛一 294

明治28年～昭和28年。外交官。父の一郎は佐賀藩士。

森賢吉 295

護賢寿（護） 361, 362, 365, 366, 367, 368, 370

東京府立第六中学校教諭（修身、国語）。中等教育談話会会員。

や行

や とみかんいち

弥富寛一 295

明治17年～昭和16年。佐賀県の実

業家。佐賀百六銀行頭取など。

やなぎさわしやうぞう

柳 沢 省 三 350

やぶうち

藪内敬之助 297

青山学院高等学部長。

やまさき し おろく

山崎四男六 294

慶応4年～昭和3年。大蔵官僚、
日本銀行監事。実父の石井直信は
佐賀藩士。

やま だ かつ じ

山田【山田勝二】 348, 365

明治34年～？。大倉精神文化研究
所所員。

山本氏 319

慶應義塾大学学生、養真会会員。

やまもと りん た ろ う

山本麟太郎（山本） 356, 357,

358, 360, 361, 362, 365, 366,

367, 368, 369

大倉学友。東京府立第一商業学校
教諭。中等教育談話会会員。

よしざわ

吉澤徹（吉沢、吉澤） 356, 357,

358, 359, 360, 361, 362, 363,

365

？～昭和14年。教育者、東京府立
第三商業学校校長。中等教育談話
会会員。

よ だ ていぞう

依田貞三 314

第一高等学校学生、瑞穂会会員。

わ行

ワイニオ氏 302

『佐賀新聞』昭和2年2月27日の記
事によると、フィンランド商業会
議所から日本視察のため派遣され

た委員の一人。

わ だ さんぞう

和田三造 349

明治16年～昭和42年。洋画家。

【団体・施設名】**あ行**

青山学院 297

浅野中学【浅野綜合中学校】 367

現、浅野中学校・高等学校。

朝風寮 309, 321, 325

姉川青年〈会〉（青年会） 301,

316

〈姉川〉婦人会 301

亜米利加の大学を終へた婦人の会
合 336

飯山中学校 350

戦後、長野県飯山北高等学校となり、
平成28年閉校。

一如会（禅研究会） 303

一如洞 284, 293, 340

一高【第一高等学校】 309, 314,
315

一商【東京府立第一商業学校】
364, 366

現、東京都立第一商業高等学校。

宇和島町小学校 335

現、宇和島市立明倫小学校か。

宇和島中学 335

現、愛媛県立宇和島東高等学校。

大倉学寮 290, 291, 292, 293,
312, 314, 315, 319, 325

大倉製紙→「大倉洋紙店」

大倉精神文化研究所 286, 287,
288, 292, 336, 344, 346, 348,
351, 359, 361, 364, 367, 368

大倉邦彦邸（大倉邦彦宅、大倉邸） 286, 293, 296, 309, 310, 321, 340, 347, 348, 357, 359, 360, 361

大倉洋紙店 292, 303, 311, 312, 330, 336, 338, 351, 356, 358, 359, 361, 363, 364, 365, 369, 370

現、新生紙パルプ商事株式会社。

小田原製紙会社 292, 351

か行

学院→「農村工芸学院」

学寮→「大倉学寮」

華日学生懇親会→「中華民国留学生招待会」

紙商同業組合 316

神埼郡教育者（教育会） 301

神埼郡宗教家坐談会 301

神埼町処女会 301, 316

神田基督教青年館【東京キリスト教青年会会館】 303

関東商業学校職員大会 343

婦一協会 332

起稿委員会 358, 359

九中【東京府立第九中学校】

364, 365, 366, 367

現、東京都立北園高等学校。

教育談話会→「中等教育談話会」

慶應義塾（慶應義塾、慶応、慶大）

308, 312, 314, 315, 319, 320

^{けいか}京華商業学校 344

現、京華商業高等学校。

月松会 314, 320, 325

研究所→「大倉精神文化研究所」

研究所副本作製部【古文書古記録副本作製部】 344, 348

公民教育委員会 360

公民教科書編纂下相談会 363

工業倶楽部【日本工業倶楽部】 336, 339, 340, 343, 356, 357

皇国擁護会 337

高師【東京高等師範学校】 314, 320, 325

講堂→「目黒講堂」

講話会→「宗教講話会」

国際宗教大会 324, 325

国民女子工芸学院→「農村工芸学院」

五中【東京府立第五中学校】 366
現、東京都立小石川中等教育学校。

さ行

佐伯中学校 334

現、大分県立佐伯鶴城高等学校。

西郷学生同窓会 316

西郷小学校（西郷村の講堂） 291, 301

西郷村青年処女一般 301

埼玉県庁工場課 350

埼玉県鉄工業者 350

酒井コンクリート工業店 286

佐賀県立高等女学校【佐賀県立佐賀高等女学校】 301

戦後、佐賀県立第二高等学校となり、佐賀第一高等学校、成美高等学校と統合し、佐賀高等学校となる。現、佐賀県立佐賀西高等学校。

佐賀県立中学校【佐賀県立佐賀中学校】 301

現、佐賀県立佐賀西高等学校。
 佐賀県融和事業協会联合会 331
 佐賀農村工芸学院、佐賀ノ学院→
 「農村工芸学院」
 佐賀紡績株式会社 302
 三商→「府立第三商業学校」
 自治会館 337
 自宅→「大倉邦彦邸」
 斯道懇談会 305
 品川高女【品川高等女学校】 366
 現、品川女子学院。
 宗教講話会（宗教講話） 310,
 311, 312, 313, 314, 317, 318,
 319, 324, 325, 331, 332, 333,
 335, 346, 351
 十一日会 319
 淑徳女学院【沼津淑徳女学院】
 351
 現、加藤学園高等学校。
 松月会→「月松会」
 商大（石神井商大予科）【東京商
 科大学】 314, 340, 343
 商大寄宿寮→「一如洞」
 浄牧女子工芸学院（浄牧院）
 344, 345, 366
 女学校【宇和島高等女学校】 335
 現、愛媛県立宇和島南高等学校。
 女子大学【日本女子大学校】 312
 現、日本女子大学。
 女子大学修養会 310
 処女会→「神埼町処女会」
 史料編纂所【東京帝国大学史料編
 纂所】 351
 親愛会→名古屋親愛会
 神宮奉斎会 331

心剣会 293
 隅田川駅 318
 隅田川合同運送会社 318
 精神科学図書館→「図書館」
 精神作興会 295
 成人教育講座 313
 青年協会→「日本青年協会」
 成美女学校【佐賀市立成美高等女
 学校】 302
 戦後、佐賀第一高等学校、佐賀第
 二高等学校と統合し、佐賀高等学
 校となる。現、佐賀県立佐賀西高
 等学校。
 清和女学校【清和高等女学校】
 302
 現、佐賀清和中学校・高等学校。
 摂心会 343
 拙宅→「大倉邦彦邸」
 相互修養団 326
 草ろう庵 316
 早天修養会 326
た
 大日本明道会 294
 大文洋行 292, 351
 高崎市修養会 337
 高千穂中学校 315
 現、高千穂大学。
 高輪中学 319
 現、高輪中学校・高等学校。
 竹中組 333
 現、株式会社竹中工務店。
 談話会→「中等教育談話会」
 千葉県中山ノ小学校【中山尋常高
 等小学校？】 345

千速婦人会 310
 中央仏教会館（仏教婦人会） 350
 中華民国留学生招待会（民国留学生招待会、中華民国学生招待会） 284, 293, 309, 321
 中等教育談話会（中等教育談論会） 338, 339, 340, 344, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 364, 365, 367, 368, 369, 370
 帝国教育会 361
 帝大【東京帝国大学】 314, 315, 319, 325, 337
 十日会 309
 東京金網会社 292
 東京療養所 345
 東方寺 337
 東邦電気株式会社岐阜支店 326, 329
 東邦電気株式会社名古屋支店 326, 327
 東邦電気株式会社四日市支店 326, 330
 図書館【精神科学図書館、大倉精神文化研究所附属図書館】 284, 286, 287, 288, 289, 292, 296, 298, 300, 330

な行

中村屋 362
 長野県臼田修養会 320
 名古屋桜楓会 313
 名古屋親愛会 327, 328, 330
 七中【東京府立第七中学校】 366
 現、東京都立墨田川高等学校。
 日曜学校【富士見日曜学校】

325, 351
 日新会 301, 316
 日暮里警察署 334
 二比山小学校 316
 仁比山村青年処女小学生一般 301
 日本宗教大会 318
 日本青年協会（青年協会） 345, 350, 361, 366
 日本貿易協会 308
 沼津修養会 337, 351
 農村工芸学院 316, 331, 334, 346, 347, 348, 349, 361

は行

母の会→「富士見学びの会」
 晩翠軒 300
 東背振村青年処女一般 301
 日比谷大神宮 305
 現、東京大神宮。
 富嶽荘 351
 富士見会 300, 301, 310, 311, 312, 340, 347, 351
 富士見学びの会 296, 319
 富士見幼稚園（幼稚園） 281, 282, 292, 296, 297, 298, 305, 319, 325, 330, 344, 351
 富士見寮 311, 312
 仏教青年会（仏青） 314, 315, 320
 太尾研究所、太尾ノ研究所→「大倉精神文化研究所」
 府立高校 366
 府立第三商業学校（府立三商） 342, 343, 364, 365, 366

現、東京都立第三商業高等学校。
府立六中【東京府立第六中学校】
 345, 364, 365, 366
 現、東京都立新宿高等学校。
**不良少年少女感化院【進修学校・
 静修女学校】** 313
芙蓉荘 308, 309, 321, 325
方広寺 343

ま行

松坂屋名古屋支店 333
学びの会→「富士見学びの会」
瑞穂会 309, 310, 314, 315, 319,
 333, 337
向山寮 340
明世寮 325, 335
明大【明治大学】 319
目黒警察署 333
目黒講堂 313, 325, 326, 332,
 333, 335, 336, 337, 338, 339,
 340, 341, 342, 343, 344, 345,
 348, 349, 350, 351, 352
目黒実科高等女学校 305
 現、東京都立目黒高等学校。
**目黒ノ宅、目黒自宅、目黒宅→
 「大倉邦彦邸」**
文部省 359, 360

や行

山上御殿 337
洋紙店→「大倉洋紙店」
養真青年会（養真会） 308, 309,
 314, 315, 319
幼稚園→「富士見幼稚園」
横浜紙業組合 350

**吉田町幼稚園及小学校【村井幼稚園、
 吉田尋常高等小学校】** 334
米沢高工【米沢高等工業学校】
 350
 現、山形大学工学部の前身。
**米沢高女【山形県立米沢高等女学
 校】** 350
 現、山形県立米沢東高等学校。
米沢市織物同業組合 350
〈米沢〉婦人会 350

ら行

ルンビニ幼稚園 351
六中→「府立六中」
ロータリークラブ 316